

頭書  
繪入

謹身往來精注鈔

全



鶴亭秀賀注釋



謹身往來精注鈔全

江戸書林 山田文榮堂發兌

夫尺牘の書疏ハ千里の面目にハ凡六の文ハ躰の姿と顯一敬馬  
 驚反鵲の勢ヒと習ふ人々倏ハ一字と做一々代の譽と致ハ鳴  
 呼父徳の天多貴賤日用の主冠より依ハ往昔より童蒙便學の  
 爲ハ庭訓自造之消息ホの往來物數種あり去ト時移りてハ  
 文中に事の辨ハ難キ品もあリハ注書繪鈔の類數起テ既成  
 也。于茲謹身往來ありハ全獨注釋の書一。故に書肆持の  
 精注を余ハ説ハ余再三辭セズ不免ハハ覺東多ハ所爲ハ  
 々。數部の引書を以テ之と參考一々盡ク注釋を施シ兒  
 童獨學の便リ不備んとす事也。管見の誤解説杜撰交々  
 んと博洽の君子補正一々ハ僥倖甚一々んと雨言。

文久元龍酉姫茶稿成

藤村秀賀題



附言

一 此書上層の小書不接下方を繋ぎ、童蒙の遺忘不使んとの設あり  
 且其傍不き繪畫の同し、幼童の目と指せんが為なり  
 一 引書教録之用多敷小△は下として何れと誌まら混札せざんと  
 その書名此知安にを要してあり  
 一 卷中初て筆格の正せと楷名と正まんとてを俗語と以てまら初の初  
 澤の例より童蒙と導くも亦便なれあり

鶴亭主人再識



謹身往來



抑教之有増者  
 人々心得有可き  
 事先以て四海  
 波静小治り目  
 出度御代日夜  
 朝暮

謹身往來

●謹身往來の義より進状返状を指すも板小能作  
 作と板の義より進状返状を指すも板小能作  
 二一のひ板小能作の義より進状返状を指すも板小能作  
 往來の義より進状返状を指すも板小能作

抑教之有増者

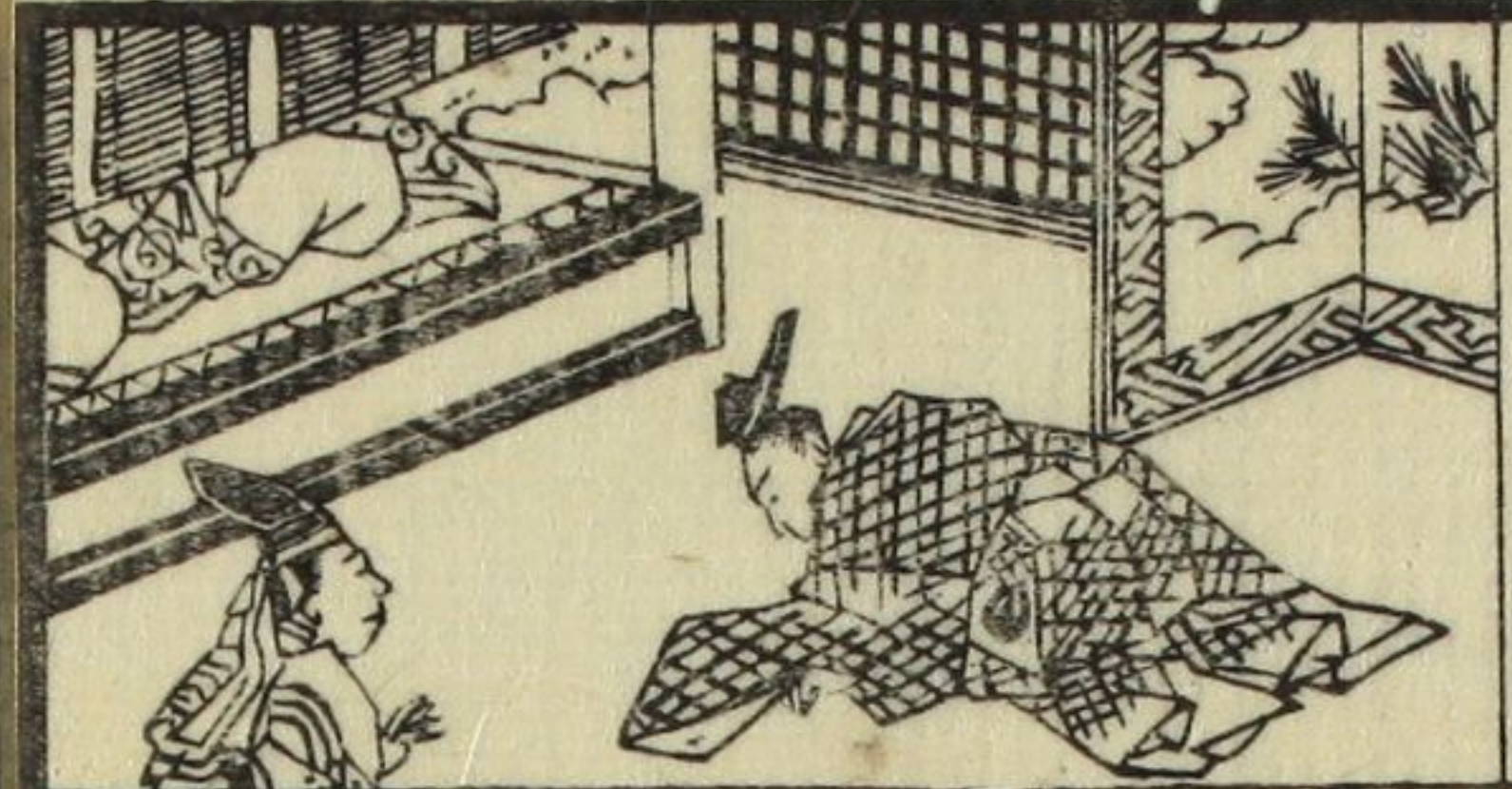
事先以て四海

波静小治り目

出度御代日夜

謹身往來精註抄

三綱五常之謂  
行國民安寧五  
教豐饒之御政  
おと浅く不



春夏秋冬寒暖  
戴き陰晴雨露  
風霜之惠山林  
竹木万花千叶  
不至其時と  
違へ不



治れる時代はつげたるは孔子の海をみ見事と云ひし  
由一はふもはつ海波静をみ知り・目出度い芽出度不  
人者天統の如く父は州木も奈せせんすの北也  
人終小統といふ事なり後をすて目出度いなり  
三綱五

常道行國民安寧之教

統之治政は漢・之治るは天子の父は天子の母は

大なることいふ・ふたふた所謂仁義禮智信は人の性とする所の  
の又つと韓連之の云ふ事・安寧といふ事よくやまきなり・又教  
と云ふは指撥差違麻といふ事・楚禱の治るは出たり以外△孟子  
の治るは令度美△素問△大同△小異あり△小字辨殊

春夏秋冬  
春夏秋冬  
春夏秋冬

戴き陰晴雨露  
風霜之惠山林

竹木万花千叶

不至其時と  
違へ不

三綱五  
行國民安寧五  
教豐饒之御政

軒小遊たのしみぶあそぶ鶏とを  
 国土之くにの泰平たいへいを  
 唱うたひ舎やを饒たかは  
 燕雀えんせつハ吉辰きちしん之  
 慶賀けいがと嘽たかり況げん  
 人民小於じんみんせうが乎  
 繁榮はんりやうと謳うた哥か一  
 渴仰かつやうせ不ずし  
 以もつて無な大たい唐たう  
 天竺てんてく期静諡きせいついの  
 有間敷あひまひ誰たれの之  
 と頭首あたまのうへ奉たてまつら不ず

ん哉や



爾なん一いつ自俗家よりのぶか若ごと  
 輩たぐひ之の族者しゆ間々まじ  
 懈ゆる事こと有可あし

くしく且かつ微かほなり△風かぜも天地てんちの氣き牙をん怒いかほりのむりぬ  
 小こをわや、△霧きりの露つゆの氣きもふありん結むすぶりのむり

遊あそぶ鳥とり鳴なり國くに之の泰たい平へいを饒たかは

雀せつハ吉きち辰しん之の慶けい賀がと嘽たかり況げん

人じん民みん小せう於が乎や

繁はん榮りやうと謳うた哥か一いつ

渴かつ仰やうせ不ずし

以もつて無な大たい唐たう

天てん竺てく期き静せい諡いの

有あ間ま敷し誰たれの之の

と頭あたま首のうへ奉たてまつら不ず

ん哉や

爾なん一いつ自俗家よりのぶか若ごと  
 輩たぐひ之の族者しゆ間々まじ  
 懈ゆる事こと有可あし

世身生衣よしのなみ

三

弓馬の家不生  
 可者武備心掛  
 可く候得共町  
 家者全く其沙  
 汰不及バ不候



讀書筆用と常  
 と爲律義正路  
 天道正直之道  
 理喜恕哀懼愛  
 惡欲之七情を  
 辨ふ可く取窮  
 屈之事業小振



家者武備可く候得共町

家者全く其沙汰不及バ不候

神代より武備ありて天照太神素戔嗚尊命を以て  
 武備の心も同じく神代より有るなり天照太神  
 原の中より天孫を降し天孫を降し天孫を降し  
 武備の心も同じく神代より有るなり天照太神  
 武備の心も同じく神代より有るなり天照太神

為律義正路

天道正直之道

理喜恕哀懼愛

惡欲之七情を

辨ふ可く取窮  
 屈之事業小振

徒然閑暇に在  
酒宴不長  
遊真不耽り博  
奕其外諸勝負  
事之遊び聊成  
儀も慎む可  
懇下而貸借困  
窮不任せ仮初  
心得遲滞令  
傍輩と雖嚴密

之無く者根の  
基成可一或も  
私欲之費と省  
と不後難之勤  
辨無く高利之  
金銀と借受返  
濟之手當と飲  
檢校勾當在名  
衆分配ホ嚴敷  
催促朝争ひ

准徒閑暇に酒宴耽り  
真不耽り博奕其外諸勝負  
事之遊び聊成儀も慎む可  
懇下而貸借困窮不任せ  
仮初心得遲滞令傍輩と雖  
嚴密

之無く者根の基成可一或も  
私欲之費と省と不後難之勤  
辨無く高利之金銀と借受返  
濟之手當と飲檢校勾當在名  
衆分配ホ嚴敷催促朝争ひ

女小丸ら... 後難... 返...





終つひ小こ者もの商あき賣うり之の  
 基もと手て失しひや唾つば方かた  
 者ものとあ笑わられし妻つま子こ  
 者もの屬ぞく小こ至いたるま近ちか  
 莫な太た之の難がた儀ぎ湯ゆ  
 命いのち断た絶ぜつ小こ及および  
 縁えん之の無な遠えん慮り  
 嗜しまさ不さるら故ゆ雙さう  
 方かた之の不ふ覺かく悟ご約やく  
 諾だく違ちが入い所ところ不ふ埒らち  
 不ふ法はふ增ぞう長ちやう徘徊はい



詩集後集

送終つひ小こ者もの商あき賣うり之の

終つひ小こ者もの商あき賣うり之の

者ものとあ笑わられし妻つま子こ

者もの屬ぞく小こ至いたるま近ちか

莫な太た之の難がた儀ぎ湯ゆ

命いのち断た絶ぜつ小こ及および

縁えん之の無な遠えん慮り

終つひ小こ者もの商あき賣うり之の  
 基もと手て失しひや唾つば方かた  
 者ものとあ笑わられし妻つま子こ  
 者もの屬ぞく小こ至いたるま近ちか  
 莫な太た之の難がた儀ぎ湯ゆ  
 命いのち断た絶ぜつ小こ及および  
 縁えん之の無な遠えん慮り  
 嗜しまさ不さるら故ゆ雙さう  
 方かた之の不ふ覺かく悟ご約やく  
 諾だく違ちが入い所ところ不ふ埒らち  
 不ふ法はふ增ぞう長ちやう徘徊はい

草身生衣集

七

街謀優長刺其  
場を退退き苗  
字と偽り身を  
窶し無宿怪  
め被れ乞食菰  
被叛逆謀叛人  
胡乱之者希有  
姿墓無即時不  
召捕れ



周章驚難決に  
及ぶ共詮無  
十手縛り繩二  
而牢舎之上忽

こまの侍しりまの出入とてむる手まのやうののりなれは  
なればせむしといふまに 毛ぬりるたとのりありあり・雛佃

街謀優長刺其場を退退き苗

窶し無宿怪

め被れ乞食菰

被叛逆謀叛人

胡乱之者希有  
姿墓無即時不  
召捕れ

街外のりゆい傳小の杖の切當うけりのありあり・を合  
●叛被いりつおのりありあり・叛逆つをむきさうへあり下と

く上小をさうりさうり・叛謀人の既小叛んるを謀て未  
察せむと・胡礼を希有といふとてゆいむり胡玉とい

へるえびをぶふりいひさうり察しとみあかんとわりのり  
忽ちりちまけて礼を次まといり小希有のありさあり

くハ胡礼といひ、ふ出末とさうりむをその指あひさ  
●女養いりひるたといひさあり・即ゆもそのさたあり

周章驚難決に

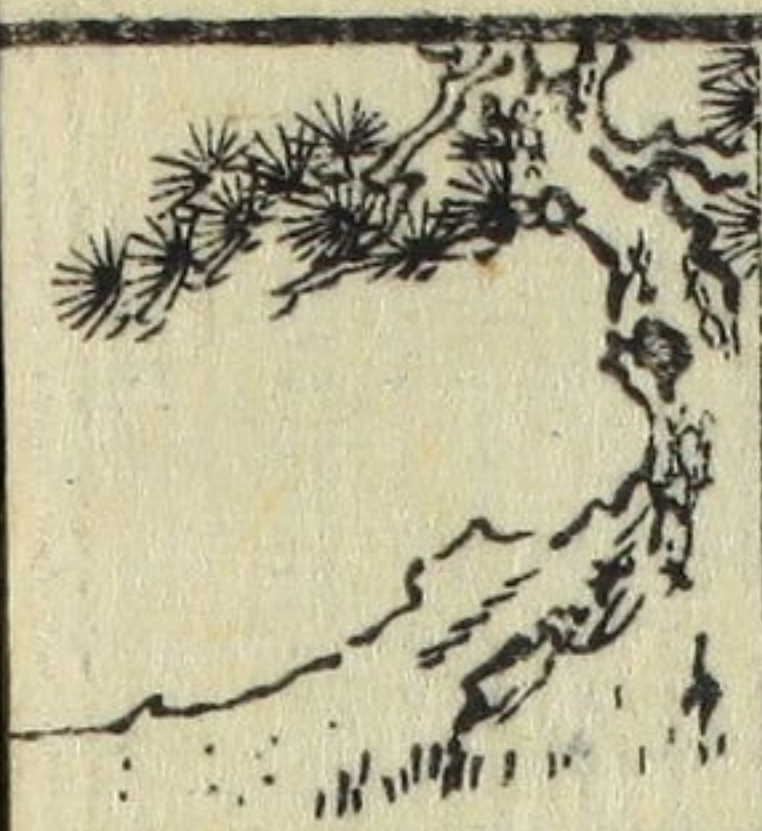
及ぶ共詮無

十手縛り繩二

而牢舎之上忽

註

ち盗賊根藉同類之名と取り謀書謀判之曰西道遂一露顯に及び拷問小之と白状は白洲に於て公之御捌御裁許と請



籍居類 名殊を謀判曰惣

遂一及露顯 拷問小之と白

白洲に於て 御捌御裁許と請

同十才の武家ありて文字のてく十の才少くむらぐて

き利あるの具あり●穿舎の罪ありのて獄下を乞ふ

ふ我の是と囚ともめらうともの●盗賊の和名とするのち

又いねむとちといふ教種あり西習の成法成法盗籍盗

あるり△正統の正小居の住来の人をあひまうて室を盗む

ののといふ△海賊といふ海小居の通船をまふめん積込といふ

物と在るりのあり△流盗を日中と申候るはあひまを

申といふ押入るとして室をうまへりのあり△竊盗といふ

にねまむあて倭小の盗賊の有りあり世小盗賊は

さて△白波△縁林木の矢名ありを放るありと畧人●

根籍のありあり、この人根籍の性ありてくくして籍居

御河り逼塞所拂  
 以整居追放御改  
 易遠島打首獄  
 門磔火炙斬罪之  
 極上置科之輕重  
 道れ難一尤家  
 財開所被れ



御河り逼塞所拂  
 以整居追放御改  
 易遠島打首獄  
 門磔火炙斬罪之  
 極上置科之輕重  
 道れ難一尤家  
 財開所被れ

放放易遠島打首獄門磔

炙斬罪之極上置科之輕重

道れ難一尤家財開所被れ

御河り逼塞所拂  
 以整居追放御改  
 易遠島打首獄  
 門磔火炙斬罪之  
 極上置科之輕重  
 道れ難一尤家  
 財開所被れ

御河り逼塞所拂  
 以整居追放御改  
 易遠島打首獄  
 門磔火炙斬罪之  
 極上置科之輕重  
 道れ難一尤家  
 財開所被れ

我と爲て地獄  
 餓鬼畜生修羅  
 之阿嘖適諸難  
 き人身を請悲  
 哉罪於天に獲  
 て鑄る所無一是  
 重宝貪り棄る  
 絆従り発り欲  
 小際限有可  
 不豈片時も堪  
 忍之二字と忘  
 ん哉



慈悲憐愍と肝  
 要心得町役  
 人為者ハ飽近  
 恐誠む可く許

公へそののん  
 為我地獄獄鬼畜生

修羅所陳述諸法請令身製

茲獲罪後天竺無傍七重宝室

恒貪棄集得共致獄正有隣

何時忘後慈之字哉

切經の音義小  
 樂といひまき  
 罪はつといひ  
 罪はつといひ

獄と獄の人の形  
 穿の口小獄の形  
 小化獄と流しと  
 小化獄と流しと

小化獄と流しと  
 小化獄と流しと

小化獄と流しと  
 小化獄と流しと

小化獄と流しと  
 小化獄と流しと

慈悲憐愍  
 要心得町役

人為者ハ飽近  
 恐誠む可く許

詔訴状虚実を  
 糾さず不賄賂媚  
 諂ふ小依り依怙  
 貝顛員之邪と働  
 き鹿略権威非  
 法之評定我慢  
 之取扱ひ壁一  
 且之過と雖も  
 目の下り天罪  
 と蒙り人之批  
 判譏有所諷  
 言と詰仇敵と

為被れん事述  
 懐千萬後悔の  
 至り皆是公  
 務と軽んじ潔  
 白小之無く萬  
 事正道不悚  
 故也



言其物一州法鏡

不礼虚実依怙俗猶和御  
 作具自皇邪廉略権威非  
 評定我慢之取扱壁一  
 且目中蒙天罪人之批  
 判譏有所諷言と詰仇敵と  
 有後愧言被為仇敵の逐懐  
 至方後悔と皆是軽んじ潔

白方事と云ふは誤也

●是誤といふは  
 誤り也

●憐愍をわかれみわさむは  
 上小を用い行要  
 行要  
 ●新法をうのこころ  
 虚を  
 ●新法をうのこころ  
 虚を  
 ●新法をうのこころ  
 虚を  
 ●新法をうのこころ  
 虚を

言其物一州法鏡

兼々其身全けし  
者必美名を得  
善事之門小進  
み悪事之庭を  
去則ハ火禍之  
雲起ら不怪我  
過を免り可し且  
又市中之往來諸  
國之旅人者道を  
譲り用捨爲ふ

上野忍を不淺草  
寺待乳山隅田川  
三圍眞洲先西國  
橋龜戸羅漢寺  
富岡新土原塚  
町湯島日暮里  
飛鳥山雜司ヶ  
谷高田馬場者



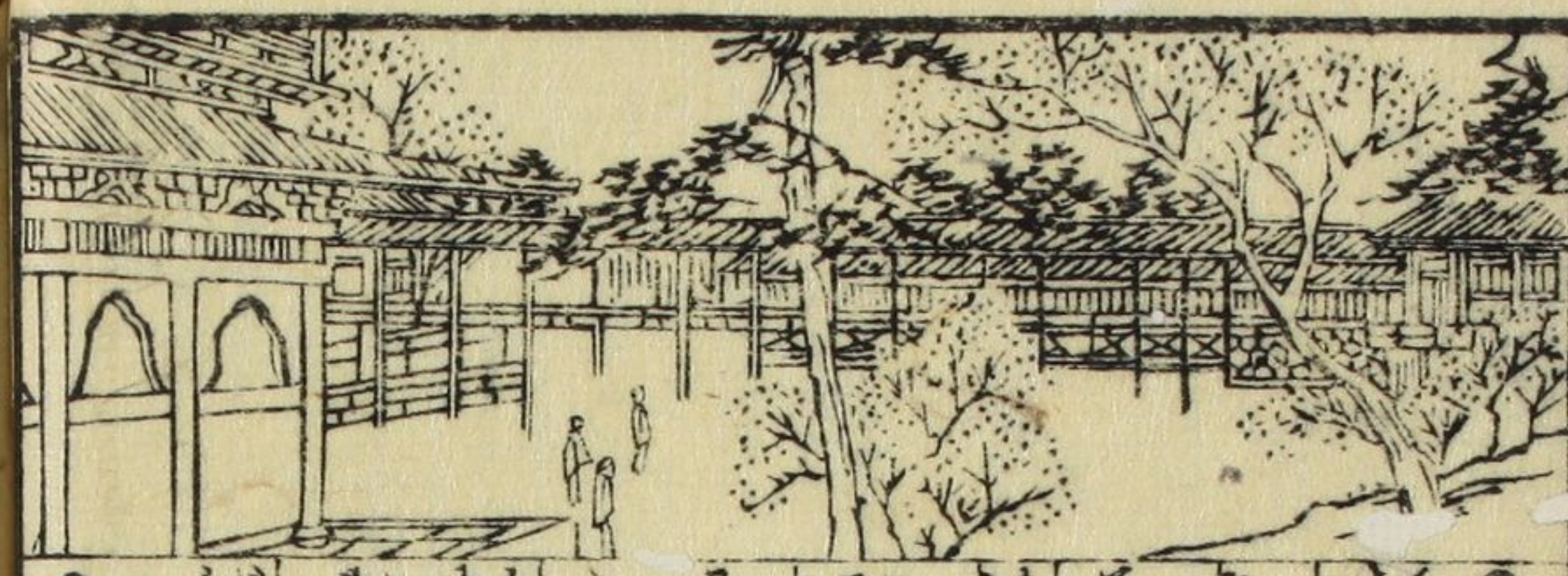
善事之門小進  
み悪事之庭を  
去則ハ火禍之  
雲起ら不怪我  
過を免り可し且  
又市中之往來諸  
國之旅人者道を  
譲り用捨爲ふ

兼々其身全けし  
者必美名を得  
善事之門小進  
み悪事之庭を  
去則ハ火禍之  
雲起ら不怪我  
過を免り可し且  
又市中之往來諸  
國之旅人者道を  
譲り用捨爲ふ

力用捨  
●天名ありのふたつたて●天福ありのふたつたて  
●天福ありのふたつたて●天福ありのふたつたて

上野忍を不淺草  
寺待乳山隅田川  
三圍眞洲先西國  
橋龜戸羅漢寺  
富岡新土原塚  
町湯島日暮里  
飛鳥山雜司ヶ  
谷高田馬場者

上野忍を不淺草  
寺待乳山隅田川  
三圍眞洲先西國  
橋龜戸羅漢寺  
富岡新土原塚  
町湯島日暮里  
飛鳥山雜司ヶ  
谷高田馬場者



上野の俗話小伊賀の上野の地祇小伊賀の故郷といふより伊賀の寛永年中の伊賀守剣吉の御守を懸眼大神あり敷山ありといひ東叡寺頼院寛永寺といふ七堂依座懸くといひ藤叡寺藤叡の寺あり今日天下第一の林苑也●不忠を奉獻寺の藤叡寺五方十町ありの大池あり中野小辨財天とあり六月の節は池中よく遊ばぬといふ其寺の勝地あり●法州寺の合掌山といふ天台宗あり明の末に佛法院といふ寺あり正統世より修しての推古天皇二十六年輪慈漢成武成といふ二人の兄弟が纏りありて伊賀守あり出現ありといふと十七代孝徳天皇大化元年勝海上人始て堂塔を建立といひ奉獻寺一の回也●乳白の美山といふ寺あり別業を天台宗あり奉獻院といふ寺あり大因年中の勅修といひ

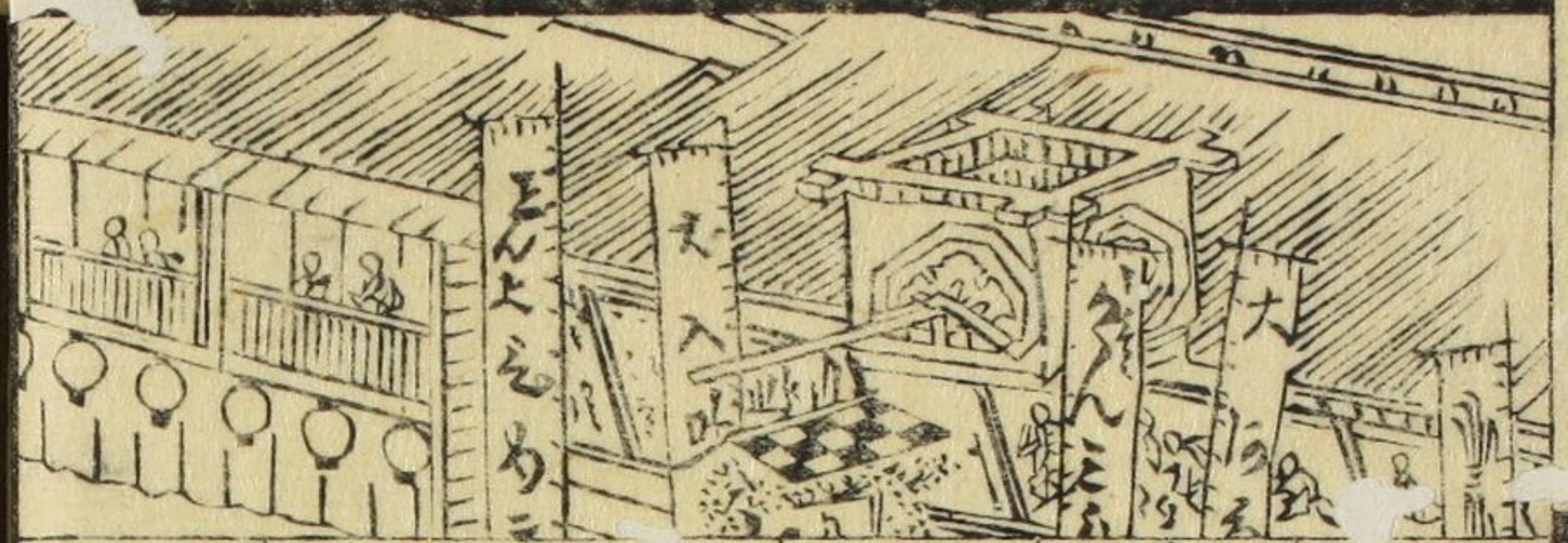
●隅田川も伊賀守といふ坂東一の大河ありて縁の法流あり故



業平船長の舟のどく都考あり小浮を堤少の櫻樹殺万本ありて春の殊さう錦とつねさふとありて実不修業といひ

ひる●之國の隅田川の東限小ありて別業を延命寺といひ櫻を勅修せり彼を角雨乞のありありは西●玄洲寺六上小ありて稲を奉り社修小い石溪の城より千巻守守流城内鎮守小勅修あり靈林といひ●玄玉橋をいひは川といひ玄玉中総の玉橋といひ板の第と奉獻寺一の誓を奉り●無戸も天護を奉り別業を天原山奉安楽寺といひ社あり大寺居氏あり●羅漢寺の天忠といひ福宗英傑流あり百十五代中法院元年沙門松尾自願彫刻と建立あり又百五十年漢ありて舟像二天又寸あり●富の屋を鏡倉焼くといふ八幡岡あり寛永年中長威法中永代





鶏毛青毛烏黒  
 麻毛雲雀毛連  
 錢葦毛枌栗毛  
 河原毛踏雪馬  
 駁糟毛珊目馬  
 其外駿足之序  
 破急大的笠懸  
 騎射弓礼之行  
 儀亦各手練之  
 有也

詩集  
 及  
 精  
 金

今海川勢結るるり・新有東  
 沙草田中不ありてお女屋をこまのへ廊るり日・髪長年  
 中庭司を老のつりあ首飾するりて是る所より今  
 俗東海乃不有系家あり故不新有系といふと必と遊るり  
 りと有系と和泉丁言新丁位若丁冠波丁是也方二丁の  
 ると下さじ而薩茅の生後りるを外捨地形後申立所他  
 りしと故薩系と各竹しを親しく有系と久しく依に  
 又今の所へ移され一故新の字と冠せりるり・根町を  
 今舞妓芝居のあり旧地より今ハ沙草捲若丁二丁  
 とのふらう久・湯考天漢まを古田乃薩兼中感次の西  
 傷小く菱屋おほ垂管といふ・飛鳥止を榎木多し  
 去も殊より小振へり・日暮里と目ぐじのまとのと

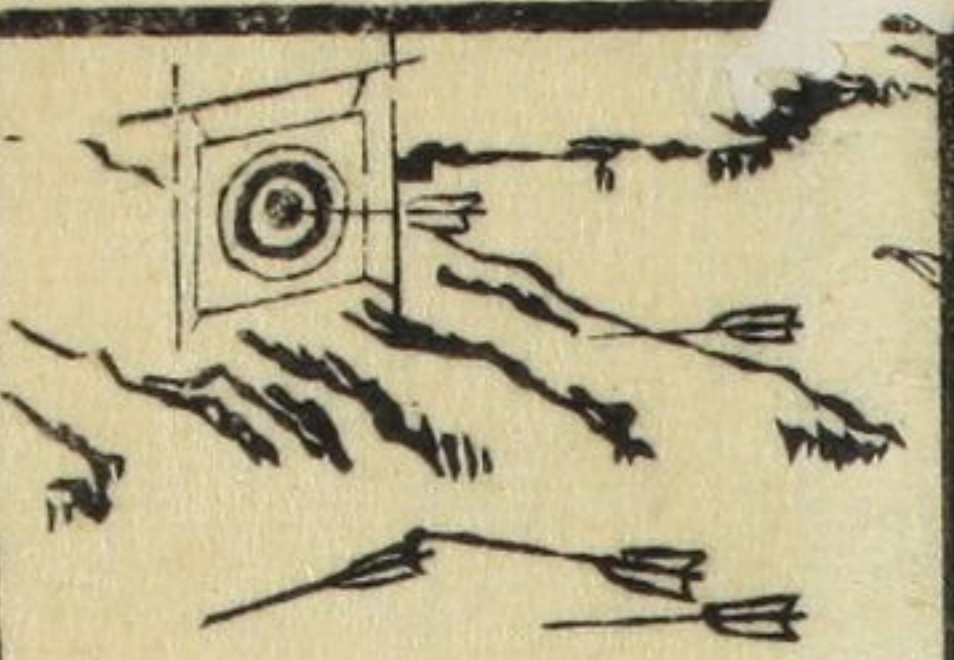
● 雑司谷火の鬼もお神あり 法眼寺の支院大の院の持  
 ● 古田子場ハ堅子様二十るありお侍人むじ右大物頼持た  
 淵田川よりけ地小至り勢  
 揚迄一旧地ありといふり

鶴毛青毛烏黒  
 麻毛雲雀毛連  
 河原毛踏雪馬  
 駁糟毛珊目馬  
 其外駿足之序  
 破急大的笠懸  
 騎射弓礼之行  
 儀亦各手練之  
 有也

謹身外來精



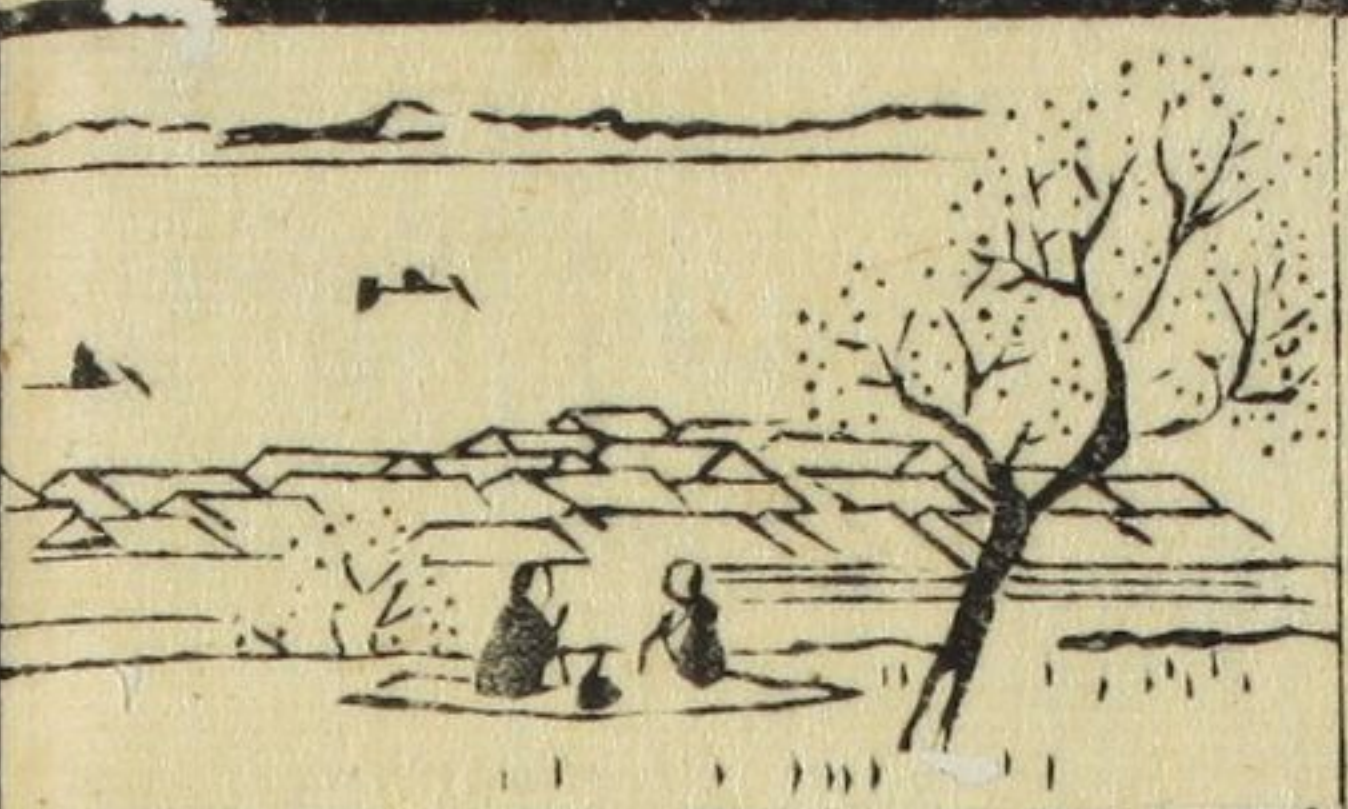
**有之也**  
 魔の糸等して髪髪をのり。雲雀毛を滑り。の毛の類。  
 むらし。連珠草。毛を虎毛等之。及び黒河之。珠を並  
 べると其の理文あり。或ひに色毛を白ありといふ。滑り。  
 杉栗毛を折る。小へ。赤糸を引。糸束毛は白糸少。髪鬘  
 毛。滑り。端毛は紅白の毛なり。また。白糸をも引。●  
 馬紋の理文あり。●。槽毛。色白。黒河。人。腹。雜。色  
 毛。引。●。冊。目。す。その。眼。布。く。ま。ん。と。お。め。の。で。た。て  
 り。●。後。尾。は。よ。き。馬。少。て。逸。物。と。履。む。と。を。な。り。●。大  
 的。を。矢。場。六。十。三。と。式。と。ん。●。笠。想。ま。る。場。の。中。小。大。遠  
 と。ほ。り。通。し。と。の。中。を。と。き。に。射。る。的。を。滑。め。り。を。を。



或時者雪小愛  
 又或時者花小  
 戯れ目黒愛宕  
 三緑山御殿山小  
 至り數頭之鳥者  
 鴻雁鴨雉子海  
 首鷄鶉雲雀者畑

或時者雪小愛  
 又或時者花小  
 戯れ目黒愛宕  
 三緑山御殿山小  
 至り數頭之鳥者  
 鴻雁鴨雉子海  
 首鷄鶉雲雀者畑

小舞ハ野小遊  
和哥之浦田鶴  
鳴渡る風情ニ而  
者其景殆と類  
以無一



鎌倉金澤安房  
上總箱根之峯  
富士之下野羽根  
田大山淺間ヶ嶽  
筑波山日光四方  
の山々

志雀津浦地味想方浦田鶴心

渡風情を其景殆と類

慈覺大師の作して用ふ由慈覺大師より恭獻の詩  
和方といふ・愛宕も城の愛宕山に因るといふ自ら  
別あり本圀佛も勝軍地花等ありて行基は昔薩の四  
作あり別處を名教寺といふ云々家の船江に道寺  
の陸一あり・三級山も度度院増と寺といふ園東浄家  
の熱本も十八檀林の冠首ありて夜大の佛城より園山の大  
蓮舎園卷上人中興も普光親智玉源あり・法嚴の  
も慶長元和の以て西小省耕の西殿あり一校の名も元寛

文の以て右此山の標の苗と植させりひけり春時爛熳と  
てむ社親より・教以て砂水の海濱をいへ教以明神の社あり  
その他より往古は西丈余の鏡の揚るもあり一ふるの以て地  
大不夜疾流以て漁人鏡の崇るなりと其以を一社に紀  
るといふは是を云ふ一或人の鏡湖とまべ一和方の浦  
も田鶴の名所少之紀及び名草等海の海をより玉津橋明  
神鏡の北に

鎌倉金澤安房と徳

箱根と野羽根田鶴

筑波山日光四方



海上小浮んで雲  
欬と怪と霞欬  
と疑ふ津々浦  
々の帆掛船者風  
小従つて遙小走  
り東西南北入  
来り飛鳥天不  
至り魚汀小踊  
る薰風颯々蘭  
麋射と誘ひ詩人  
ハ樹下小首と頌  
け歌人も池邊

●後念のあらたしき御朝は天下の武勇とあり始りては所不  
岳とありて一回海あり。今次も武勇の程少くは所不  
文庫のありし所より文永元年北條頼朝の文庫とて  
と信仁のまを収むる後上杉安房も憲実再興といふと  
後と荒廢しと傳ふ七ぶ。箱根も武勇の程少く東海及び  
西よりは所実ありて後來の人を改む。富士とて人自六代  
孝安天皇自九十六年庚申の六月始りて出現すといふと  
此鏡那るより一々格神代のむじよりありてと傳ふといふ  
畠とて。一羽の雲土の下のつと。羽根田も武勇の程少く  
西之安方天と安をするとと傳ふといふと。大正も武勇の  
程少く石号大持現をあら。清君嶽ハ伝及不在と傳ふといふ  
煙といふといふ。筑波ハ武勇小在と傳ふといふ。伊弉諾と

女神の修持冊号と人皇二十六代白皇極天皇二年の草創とて天  
比用關筑波の神社と号し。日光ハ神の玉小在と傳ふといふ。大正  
元年西之安方天と安をするとと傳ふといふ。大正も武勇の  
程少く石号大持現をあら。清君嶽ハ伝及不在と傳ふといふ  
煙といふといふ。筑波ハ武勇小在と傳ふといふ。伊弉諾と

浮海と怪雲欬欬欬欬  
浦帆掛船後風遙を東西  
南北来飛鳥玉天與浦汀薰風  
樹下小首と頌  
歌人も池邊

陸身生天書主少

十八

の月花小題ハ



苟小無双之絶景  
也此所釣網諸漁  
之渚而而其佳  
品者名小應櫻  
鯛板鮒灘鱧石

物之夕鱒青箱  
烏賊飯蛸蟹  
蛇海月榮螺刺  
牡蛎蛤海蛭蛭  
紫鯉笹葉鮓繪  
殘魚細魚石鱒  
車海老小芝海  
老海鱒魚交の  
雜魚鰯鮫鮭  
鯛鯉上戸前鯉  
沖之沙魚所謂  
其者是也

詩身行及精注

人頭池を以て

●海とらうみのうへ・怪ハ  
●鮎のころえ・津くハ

●浦の津細波津といふとく・濱の王をいふ・浦くもよ不同トク  
●浦は有浦なるいふが正・風を風多くして月相すれをいふ  
●おろしき下ていふとまきくハ池池不用也・葉風も風くも  
●湖ハ風多き・棠麝も香の香なり也にハ所由借  
用也・樹ハ木の下  
●池をいふけのやうに

苟双絶景也ハ  
所釣網諸漁之渚而  
其佳品者名小應櫻  
鯛板鮒灘鱧石

鱒青箱  
烏賊飯蛸蟹  
蛇海月榮螺刺  
牡蛎蛤海蛭蛭  
紫鯉笹葉鮓繪  
殘魚細魚石鱒  
車海老小芝海  
老海鱒魚交の  
雜魚鰯鮫鮭  
鯛鯉上戸前鯉  
沖之沙魚所謂  
其者是也

謹身生來精注

●を双とらうみのうへ・怪ハ  
●鮎のころえ・津くハ



黄昏と境と爲  
 白魚寄の簾  
 船者漫々たる  
 大海小輝き水  
 底之砂者金玉  
 之光と爲し

濤小映ト艶々  
 小面揖取撓數  
 百艘前後左右  
 小打乱焼争ふ  
 莫恰も日中小  
 異るゝ不一々毛  
 拳小遑無一頗  
 秃筆と駢訖



少州を以て佳兵と云ふ也。操網と云ふ色標の如し故小名と云ふ又  
 又細い二月花候以をより久敷小名と云ふ。板船も主形の板の  
 ごとくまじりたる也。滋養の極海に荒海小すむをよりしすれ  
 ば初より。飯船の並の船より別持りて始の飯の玉の袋  
 程小ありと名と云ふ形も小き。其船もその色をそのま  
 じりたる也。毎の船も其まじりたる也。毎の船も其まじりたる也

船者漫々たる  
 大海小輝き水  
 底之砂者金玉  
 之光と爲し

若金と爲し  
 光映波濤艶々  
 取撓數百艘前後左右  
 小打乱焼争ふ

莫恰も日中小  
 異るゝ不一々毛  
 拳小遑無一頗  
 秃筆と駢訖

濤小映ト艶々  
 小面揖取撓數  
 百艘前後左右  
 小打乱焼争ふ

又御市内之  
繁其路次廣  
雖阿蘭陀  
竝に朝鮮國從  
來朝之節且祭  
禮相撲夷構皆  
烟華禮萬人集  
年之市往還混  
雜群集之砌り  
辻々警固者

又御市内之  
繁其路次廣  
雖阿蘭陀  
竝に朝鮮國從  
來朝之節且祭  
禮相撲夷構皆  
烟華禮萬人集  
年之市往還混  
雜群集之砌り  
辻々警固者



又御市内之  
繁其路次廣  
雖阿蘭陀  
竝に朝鮮國從  
來朝之節且祭  
禮相撲夷構皆  
烟華禮萬人集  
年之市往還混  
雜群集之砌り  
辻々警固者

既中

既采油斷無之  
と制し共大海何  
と以て防ん酒醉  
罵り暴破者禁  
断と取り自殺  
手負行倒首益  
り捨子溺死相  
對死其外愛死  
悶絶絶入



病之一類脚氣  
中風霍乱眩暈  
黄疽癩病疱瘡  
麻疹血の暈瘡  
毒石淋消渴痢  
病脹満疝瘰癧  
痛痔脱肛瘰癧  
腸寒虚勞驚風  
風毒腫吐血痰  
癰疔之腫物癩  
癰金

油断絶其大海何防酒醉罵り暴破者禁断と取り自殺手負行倒首益り捨子溺死相對死其外愛死悶絶絶入

暴破者敗林其自殺子負行

倒首行倒首益り捨子溺死相對死其外愛死悶絶絶入

愛死悶絶絶入

とりの●暴破者いづつこの●林其いづつこの●  
公より判りしといふ●自殺いみづつ丹小ふいといふ●溺死を  
あふおがまて死せる●お對死いぬ●  
女病は病せずなり死をといふ●愛死いぬ●病ひるるる

病之類脚氣

中風霍乱眩暈

黄疽癩病疱瘡

麻疹血の暈瘡

毒石淋消渴痢

病脹満疝瘰癧

痛痔脱肛瘰癧

腸寒虚勞驚風





其數具小述難  
まし雖も膿血

言身行牙米三金

まの熱ふろて奈は御いむ痛之●中風は虚を不ありて奈  
 以若ひま痛之世ふ●中風は年老に致しされば奈せん  
 人あま下泄あり●若し人ふ奈さるるあり●滑乳も外邪  
 不ありされて●黄痘は熱血の久しありて  
 美ふるも●瘰癧は熱血の久しあり●疥癩は換人倍不  
 瘰癧といふ●疔癩は雪武天皇天平年中は後ふの  
 の人初死へ流流して瘰癧小毒に傳ふあり●目赤  
 小流布せりといふ●古多法小より麻痺目同病ふ後り  
 といふ●瘰癧毒その移り多し●倍ふりさして治りのむ  
 せりといひの泄あり●石淋も倍ふり入淋病として  
 瘰癧毒のいふはあり●消渴の女の病ひふてその種淋  
 痛ふ同●後漢も多く女は病ふて血の明るるあり

まゆ多熱血のくろ小腹くくらなり●腕紅は  
 瘰癧のツやく紅門たふそ色出る●瘰癧病はくろやそ  
 あり●傷をいふ非小傷くまて奈るその多し●肌肉此  
 り不伏し安小ありて奈く熱病とる汗多死を傷を  
 とり汗あるを傷風といふ●虚勞も多し●瘰癧病を  
 りの病あり●驚風は小兒の病ひありて又かんの虫の依り  
 こごりあり●癩は疥癩の種せざるよりおもはれ毒は死  
 病ひの●疔はひは足面など小けむる瘰癧種多あり●癩  
 病ひ赤血の不潔より登りける殺時として目眩死付  
 神氣ちりざる此瘰癧なり●令瘰癧切瘰癧といふあり

長教其難秘膿血を秘

堂身生天書生抄

之手配秘傳之  
膏藥灸治鍼科  
外科之功者古  
法後世本道比  
名因加減之配  
劑と以て養生  
と遮り遂血脈  
巡り邂逅蘊生  
事有而齡を  
延ふ小及ぶ者當  
人之運命の盡  
不所介抱人丹

誠之甲斐有し  
謂つ可し



然りと雖も改  
小就心得可者  
腕脊之入黒子  
膚之壓襟肩

言身行及精三金

傳膏藥灸治鍼科  
外科之功者古  
法後世本道比  
名因加減之配  
劑と以て養生  
と遮り遂血脈  
巡り邂逅蘊生  
事有而齡を  
延ふ小及ぶ者當  
人之運命の盡  
不所介抱人丹

斐  
具よりそまへて  
傳の葉より  
と刺して痛ひを治する有り  
瘡をさる馬より  
古法本乃六漢の法  
病ふよる本方を  
死刺のさるが  
血脈ハちのま  
有り  
丹練ハその  
改て心海を  
腕脊之入  
膚之壓襟

改て心海を腕脊之入  
膚之壓襟  
腕脊之入黒子  
膚之壓襟肩  
改て心海を腕脊之入  
膚之壓襟肩

言身行及精三金

二二日

臂股膝腰の疵  
 面幹之雛天窓  
 額鬢長月代之  
 元跡目耳鼻腮  
 頰骨眉睫咽  
 唇壓面頰瘦せ  
 衰亦者肥滿之  
 有様



孕婦瞽女坊主  
 髻僧盲人跣跛  
 膝行唾聾之口  
 書詳小衣類布  
 子木綿棧留無  
 地之裕



壓襟肩膊股膝瘦赤面

雛天窓額鬢長月代之元跡

目身鼻腮頰骨眉睫咽唇壓

面頰瘦衰亦者肥滿之有様

△和子始小衣類布  
 △和子始小衣類布  
 △和子始小衣類布

孕婦瞽女坊主

髻僧盲人跣跛

膝行唾聾之口

書詳小衣類布

子木綿棧留無地之裕

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不



脇差之拵之緑  
柄頭目貫白絞  
七羽鉤鞘鐺

言九行又米之金

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

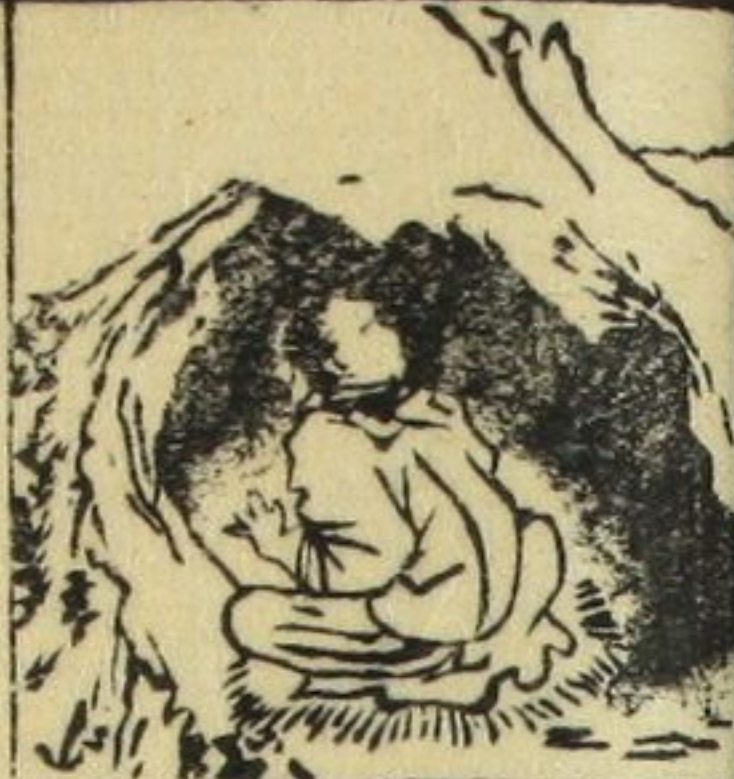
練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

練緞織鳴曝帷  
子嶋縮太布葛  
布細美生絲絞  
之浴衣單女合  
羽縹伴帶羽織  
袴踏凶輕衫裁  
著股引脚半品  
々奉て負ふ可  
ら不

謹身生衣書主抄

三十一

目鏡鋸夫々好  
 む所金銀減金  
 真鍮赤銅象眼  
 粉繪細工彫物  
 者品小應ト尤  
 始終恙無く檢  
 使之差圖と受  
 可き也



猥之家々多ク  
 者邪見放逸柔  
 弱小引れ三毒四  
 欲五臟六腑を  
 貫き其身と忘  
 却令り渡世疎  
 成子孫見習  
 育が故小再家

鑄更諸寄金銀減金と珍者

銅象眼粉繪細工彫物と上品

者品小應ト尤始終恙無く檢

使之差圖と受可き也

今之の人の切羽の禪の重表の傍に  
 細い又脛合ともま刀の層  
 と纏ふの之に後ハ小尻とも又標ともま  
 鴨目ハ小尻ともま刀の層  
 減金ハ渡あり銀ありあり  
 銀ハ小尻ともま刀の層  
 大の人の害ハ小尻ともま刀の層  
 小尻ともま刀の層

まの人のありの  
 彩繪の銅金銀やまのつる  
 今之の人の害ハ小尻ともま刀の層  
 小尻ともま刀の層

猥之家々多ク

者邪見放逸柔

弱小引れ三毒四

欲五臟六腑を





世上之戒默止  
難き小及ひて  
者自作罪  
科りて免れ不  
所也去程に  
神佛と尊と天  
下國家之恩德

と敬ひ先祖者其  
依在り如く裕と  
言恰と言尊慮  
不背とと恐れ  
遠忌追善菩提  
之吊を抽で活  
る人小同トく饗  
應一朝夕起目  
の行座を定め  
口ハ禍之門々  
芥塵之掃除ホ

言身行及才金  
もと小同く佛説火種くの説あること食登るあり・客まふり  
ある女と通さる之俗ふの法をこと・出入る公訴小及ひて由裁  
びせうらること・一件のりもまらること・澄人も焼扱と成  
人あり・思ふありひおんたること・賢者ありこくもまら  
ことと・宥免りけ方のか  
とありて免れと  
世と戒及黙止

止者自作罪科りて免れ不  
所也去程に神佛と尊と天  
下國家之恩德  
祖と其依在り如く裕と  
言恰と言尊慮不背とと恐れ

言身行及才金  
遠忌追善菩提之吊を抽で活る人小同トく饗應一朝夕起目の行座を定め口ハ禍之門々芥塵之掃除ホ  
人同郷食意多記所定公好  
福心ハ芥塵之掃除配殊

堂身生天音主少

三十一

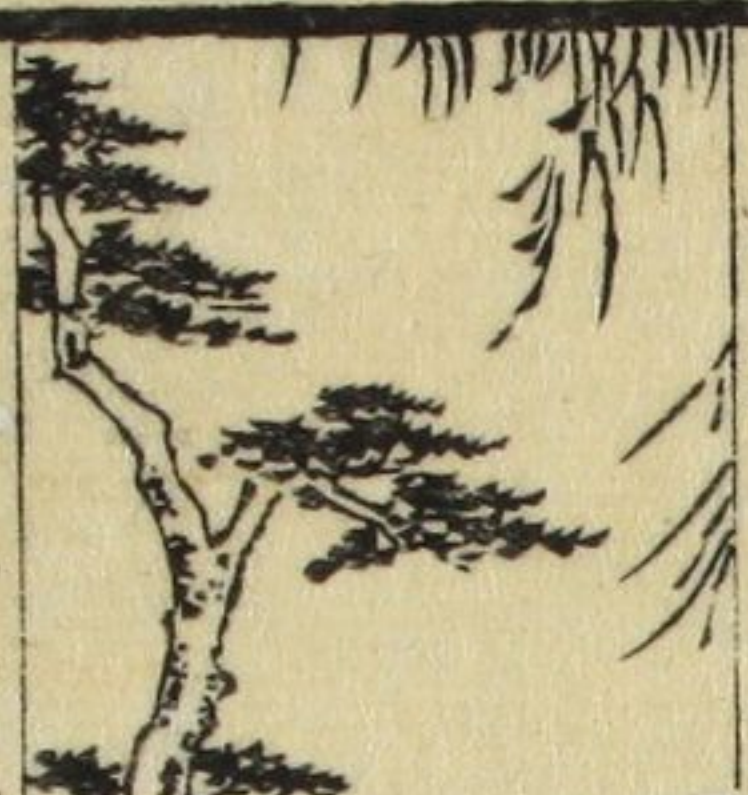
誠を配れば



邪氣之穢日々  
小薄く心中之  
雲霧念々小晴  
松ハ三寸の緑と  
生ト千年之壽  
と保つ人者三

寸之胸と磨き  
万人之中と秀  
富貴安泰之  
祈禱諸経も  
之小過可ら不

地借店借表廊  
裏住居職人商  
人



●を云ふ六ノ十回忌の人の●退居の如き人の乃不修  
●之の死を吊ふして●菩提を天竺の云々及んたとの小を  
●天をまれば正意するも●答を意はたのりてあり●乃修か  
●るひすすく燈をまきとてい●日福門く人法の細ひは  
●よりいひるまての孔子家語中云々誠小修徳の根より  
●尾何と傷る福の門よりとあり●押除はてしひのぞくまり

邪氣穢日々秀心中雲霧  
念晴松生守縁保み壽  
秀人生磨守胸秀万人中

富貴安泰祈禱諸経守  
●邪氣のよこすまのりてあを徳の邪氣といふ  
●雲霧と云ふ中の松ををくくするなり●保  
●松の若芽とていふ或は抑ふもの●本ありてぶれたりのち  
●みりしとよむと●秀ハねたんむるの意●いふまてみりしとよ  
●いふ草目料が△孝経大義小材是とていふは徳をよきとい  
●ふとあり●安泰いふすらひくゆらふと謀ふゆらぬとの意

祈禱諸経守  
●法経の△華嚴  
△河巖△方等△般若△法華木の一切経にさしよ  
●地借店借表廊裏住居職人商





室町二丁目

宗旨者天台眞  
言禪律浄土日  
蓮宗一向宗此  
外御法度之切  
支丹悲田不受  
不施ふ至

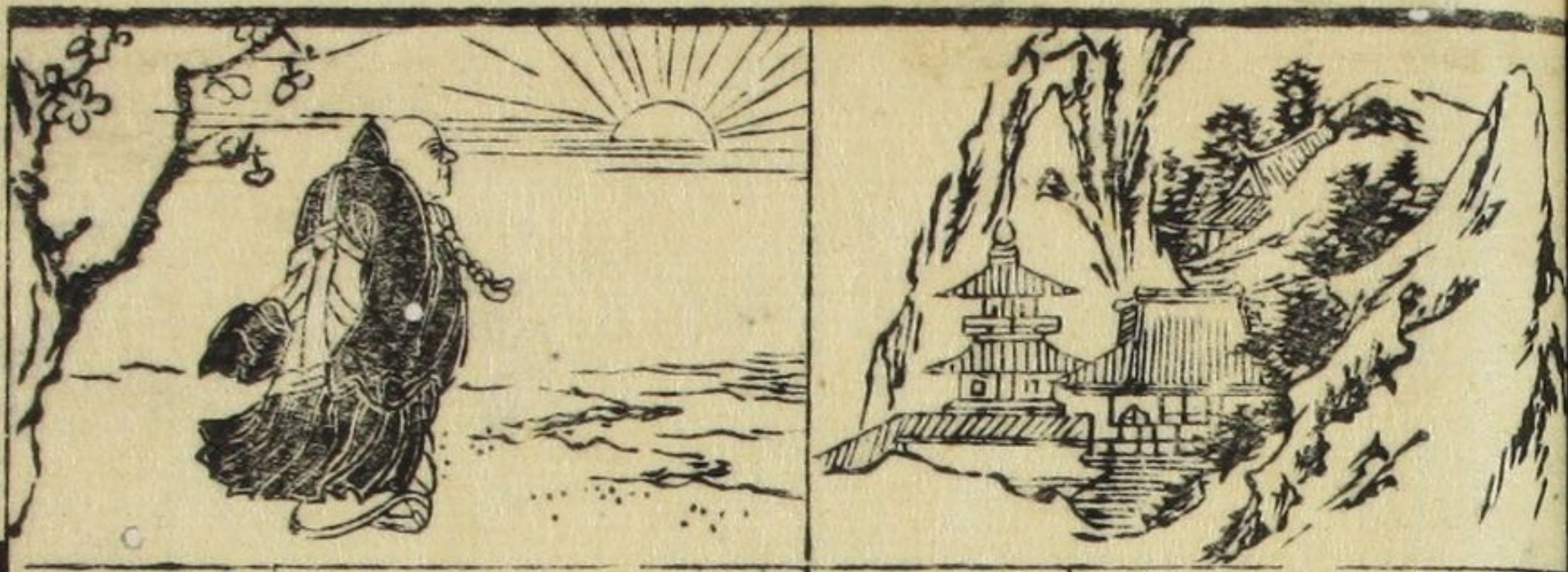
●地保と大地面よりりて宗他をもその殺小部持大の●唐信  
の月の部保と定て部居と信文と●表廊の表信指の  
●裏は居の表信の書小信をのむ部居の地保と殺の部  
●表一●藏入りの多の部居の細ともをり●ある公市  
人少の十代推古天皇九年又畿内および  
法小賣賣の部居と指の部居の部

### 宗宗

# 天宗天台眞言禪律浄土日蓮宗

# 何宗対法浄法度切支丹

# 悲田不受不施



法の爲唐を不入の法信ふ小りり部居智者大師の部居を  
信宗一師朝の後指の部居●表云宗の二十一代平城天皇大同  
元年法法大師入唐の部の信小部居を信宗一の飯の部  
めり●信宗の八十二代後信羽院建久二年宗再信宗の部  
信宗一の部居の部●信宗の十六代孝徳天皇と天平勝宗六年  
唐信渡る相尚未終して信の部●信宗の八十代信宗の部  
兼安の年信宗の法信上文信の部居●日蓮宗の十八代後  
信宗院建長又年月廿八日日蓮上人於日小信の部居を信  
始て信の部居●信宗の八十三代信宗の部居建仁元年信宗の部居  
信の部居の部外小信宗●大信信宗の部居又八宗の部居  
信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居  
信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居●信宗の部居

辻占講譯並小  
屋基夜商亦迫  
銘々巨細小之  
を改め頗不審  
之店子と除き



瀬戸物鍛冶研

師透懸時繪師  
印傳屋鏝櫛挽  
花笄時花の掃  
枝瑤瑠電甲紅  
白粉元結油商



支丹のハ格屋の  
邪教を信じて止む重

過に漢教を信じて止む重

高直建路巨細改頗不審

之除店子  
過に辻占に出て人の吉凶禍福とト云  
一の之・漢譯のむり太平記よと云

瀬戸物鍛冶研  
瀬戸物鍛冶研の法をいふの格と年来漢草典の儀小  
古平記を漢代又その以未松青新軒といふの儀則して漢  
と漢の系於いふ系永暢と作す云一・路といふの儀  
巨細いといふの儀と一・不審いふの儀と一・除きといふの儀

繪師印傳屋鏝櫛挽花笄時花の掃枝瑤瑠電甲紅白粉元結油商

油商人  
瀬戸物と六陶器といふ△和漢と才園舎ふ云  
尾刀の漢字不漢語に他る△漢字と作す漢

書に洋一とあり  
● 瀬戸の刀の此と和の之  
● 漢字の漢

お師不同く合詞をりて換と云と略之  
● 前繪師を令  
和の語を必々種々の漢字小画くりりるり是その格あり

と概小字舎院の正代の以よりあるとも  
● 東山美公の時を  
● 平傳屋の草と以て種々の儀書を造るあり



下駄傘皮足袋  
雪駄雪沓草鞋  
草履足駄之世

利賣桐油笠張  
手間煙草雇請  
負日傭宿屋彼  
等者透問無  
棟を連れ建續  
其業區ふりて  
寸暇と得不候

傍に金指環の細工をみる人のこと・持板も掃人發と惣大  
 具・透摺又も代勝ふ他その形無ふ他て海邊に小舟  
 の之甲小黒白の班文ありて甚どるあり・蠶甲ハ俗小  
 無の甲と又之とあるあり透摺と其の持同ト・細い細粉  
 又も薬脂ともくその格付の時よりありて我物ふもよれと  
 用もろ久一・白粉ハ持統天皇六年小指の他とつとそ  
 製粉一りろきじも度長元和の以景久の人の小小西は  
 玄糸といふの天竺ふ入ておひ湯てくる・こえ結の寛文のころ  
 より起る・沖い保の以系室町  
 袋雲沓も水也草鞋も履長  
 法世利賣桐油笠張手間煙  
 草履請有日傭宿屋彼等  
 透摺建續其業區ふりて  
 寸暇と得不候  
 可憐ト  
 是法ハ是下の畧格ト其ハ中指とつり・傘ハ織  
 とそ指久ト其今の傘ハ又禄年中堀の役人納屋取るといふ  
 の小玩球より持事トと指ハ・皮ハ是袋ハ麻皮をよと木綿  
 具袋も勢ハ上州より指ト・聖蹟ハ千利休初に傳  
 是中ハの路入小窓の通ふねとあるあり・世利賣ハ手と健意

莖身生天青生少

三二二



翠簾屋製作鳥  
帽子折蹴鞠之  
垣土弓之困土  
器焼油石灰焼  
炭兼乃木薪之印  
味噌酒醬油麴  
酢造り

歩歩のり・相沖の雨具之是ハ油相の突の油少之製せ  
故の者之といふ今ハ元の油を用之・燻草の慶長十年始之  
南蛮より傳へり・法負者一切を何種とみ換之今令  
の價之極め法取之・日傭者日ハ傭者人足之

翠簾屋屋兼此鳥帽之折蹴鞠

垣土弓之困土器焼油石灰焼

炭兼乃木薪之印味噌酒醬油麴

酢造り

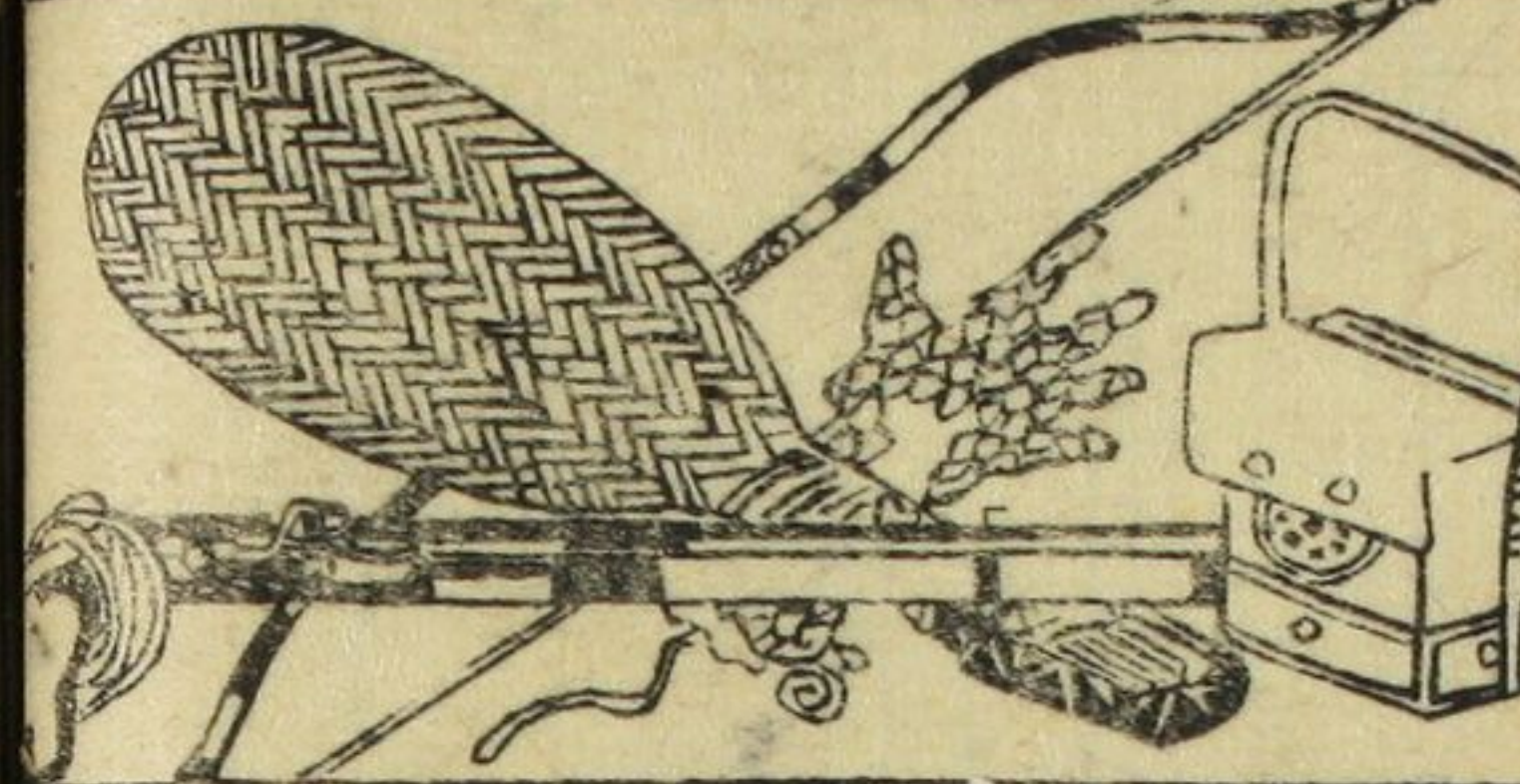


扱者弓矢鉄炮

子いりて高類と名づくその名の意は小依てありといふと  
意と候名を名づくは小意懼子といふとあり・滋鞠を用  
天竺の粉小粒を中△候裏抄小之より今種波家・飛  
おけと取流小分てり・出らハ射矢場のみあり・都ハ大  
まきと名づくあり・味噌本字末將質之官女呼之無忘といふ  
酒之低飲の遠之西かると馬小進むし△我必策小より△  
親文少少廉酒と遠とあり又△本草△今素問ある周ハ  
美事より始るといふ我於小も神代不既小酒あると日抄の  
製と知バ今遠之所の酒之意神天竺の酒より始るといふ  
●酒ハ此和名をひやくといふ・麴ハ米と製するあり・酢ハ其  
製法種々ありといふ  
尾長より始るといふ

扱者弓矢鉄炮

銅卯早合空捕  
弩儀弦鞞師馬  
具甲冑武具之  
仕立



卵の花綴蜻蛉  
頭黒革綴金小  
札紺糸之鏡頭  
秋毛毬星筋之  
兜喉輪面頬鉾  
勝當鎖袴



銅卯早合空捕弩儀弦鞞師馬  
馬具甲冑武具之仕立

予あり新所て我朝少の既小天の麻兜弓天の羽矢あり  
△日本紀神代卷ふええより●後炮の治年中南蠻の人  
院球少より鳥嘴鏡を造り神と教四枚小院球より  
藤原氏多持多へ持て後より△羅の文集ふ云朝野ハ

我朝より天正十八年庚寅之月後ハより●銅卯ハ又  
胴札ともう出着て入る具之●早合ハ始硝とるるあり  
●空捕ハ糸といふ具あり●弩ハおわゆるこれに弩儀と  
いふと考へバ●鞞ハ弓を射るふおもへりうはく●甲冑ハよ

ろひ置るより甲とわぶとの六和依の綴り  
来れと●武具ハ甲冑本柄も物也と考へり  
知れ綴蜻

卵頭黒革綴金小札紺糸之鏡頭

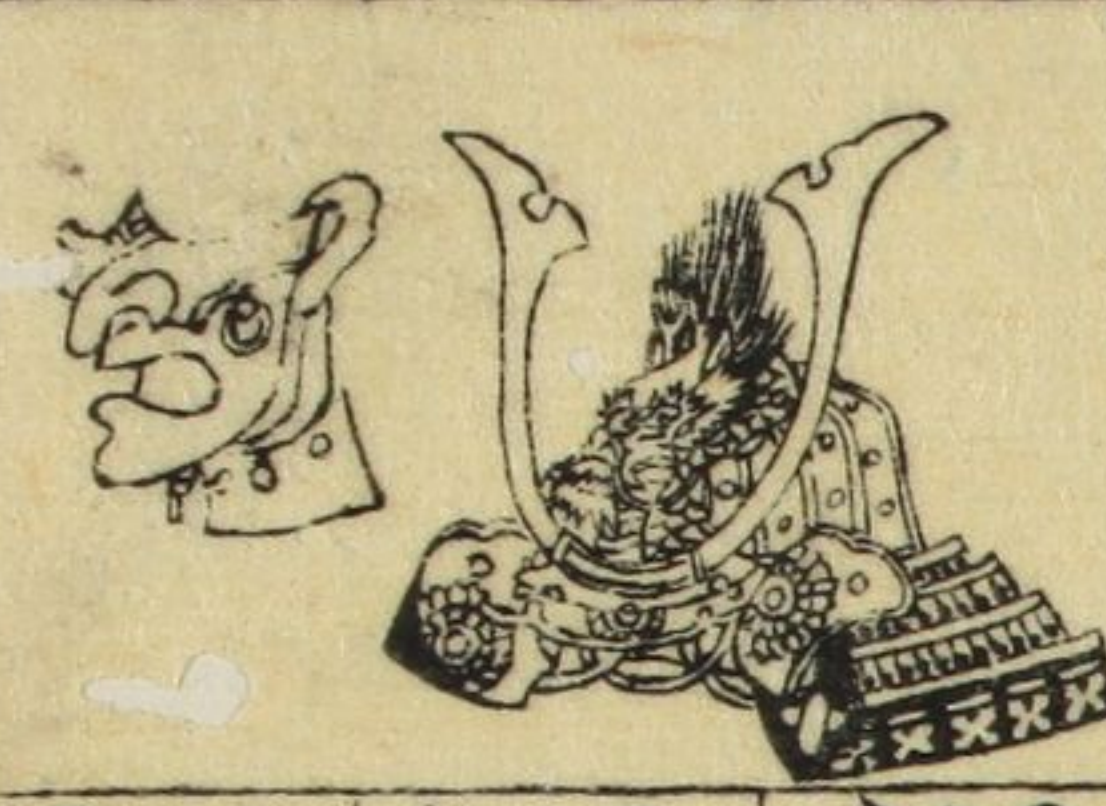
秋毛毬星筋之兜喉輪面頬鉾

勝當鎖袴

銅卯早合空捕弩儀弦鞞師馬



金覆輪黑淋張  
鞅五六之鏡響  
鞅虎豹之鞅覆  
鹿の子熊毛之  
障泥押掛馬驪  
鞭手細



卵の花綴蜻蛉  
頭黑革綴金小  
札紺糸之鏡頭  
取毛毬星筋之  
兜喉輪面頰鉞  
勝當鎖袴

言身行及米之金

今今の類小仕の汗流滑草あて他の大指之帝より  
馬類の類裳ともいふ鳥るたを猿類を名づく  
紋・金錯・御立ホ忌く小他  
昆河門ホ救名あり  
金覆輪黒淋張  
金覆輪黒淋張

鞅虎豹之鞅覆  
鹿の子熊毛之  
障泥押掛馬驪  
鞭手細

金覆輪黒淋張  
鞅五六之鏡響  
鞅虎豹之鞅覆  
鹿の子熊毛之  
障泥押掛馬驪  
鞭手細

卵の花綴蜻蛉  
頭黑革綴金小  
札紺糸之鏡頭  
取毛毬星筋之  
兜喉輪面頰鉞  
勝當鎖袴

頭黑革綴金小  
札紺糸之鏡頭  
取毛毬星筋之  
兜喉輪面頰鉞  
勝當鎖袴

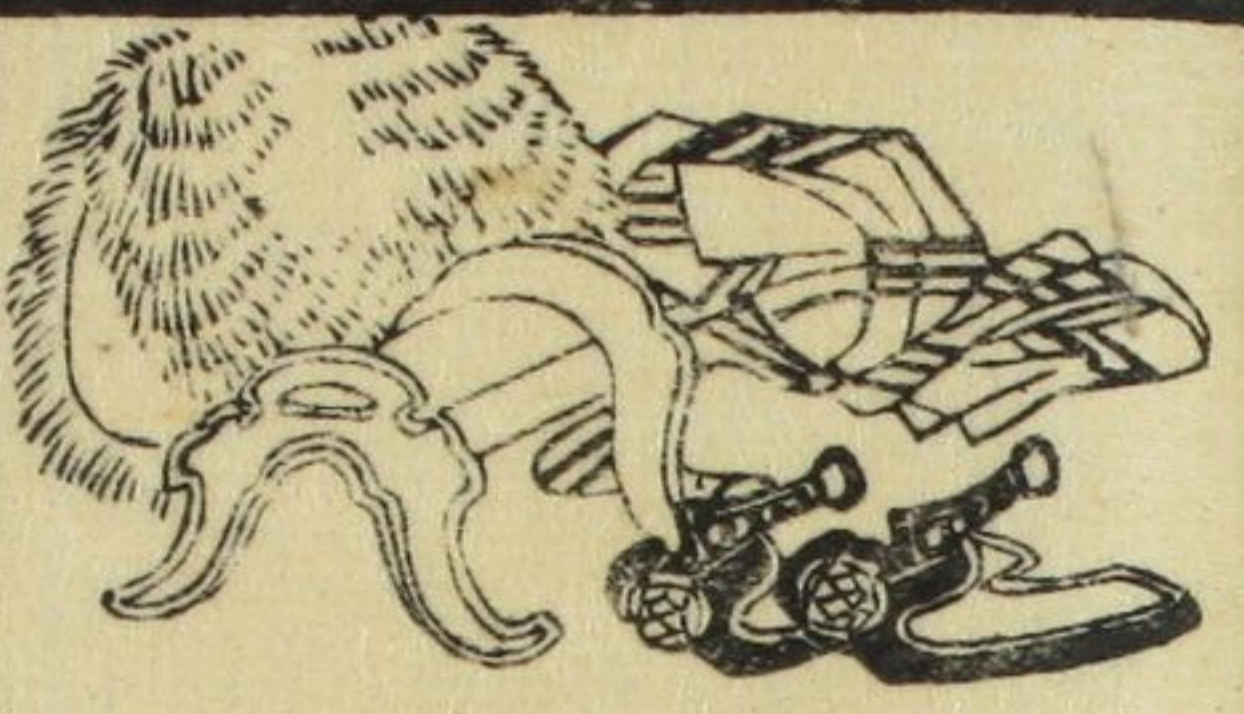
卵の花綴蜻蛉  
頭黑革綴金小  
札紺糸之鏡頭  
取毛毬星筋之  
兜喉輪面頰鉞  
勝當鎖袴

草書生天書土少

三十五



金覆輪黑淋張  
 鞅五六之鐘響  
 鞅虎豹之鞅覆  
 鹿の子熊毛之  
 障泥押掛馬驢  
 鞭手細



或ハ龍吐水爲口  
 階子大團水籠  
 敵擾等諸色の  
 職人

言身行不才之金  
 一が今ハ類小仕のハ鉄滑草あて他ハ大指之重なり  
 ●西類ハ類蒙ともハ鼻る死を猿類と名づく ●一研ハ片  
 紋ハ金錯・御立ホ品不他 ●腰蒙ハ條立筒・十王  
 毘沙門木紋あり ●鉄袴ハ今ハ指也佩指の類ハ  
 三一鉄小膝金指  
 金覆輪黒淋張

鞅五六之鐘響  
 鞅虎豹之鞅覆  
 鹿の子熊毛之  
 障泥押掛馬驢  
 鞭手細

●金覆輪ハ金中縁とりハ鞅あり ●五ハ陰あづこ  
 ●響ハ馬の口小くませハ保てりハ鞅を制するハ之 ●鞅

馬の尾の鬣を束むりのハ ●虎ハ心獸の類ハ形指のとくハ  
 大牛のじとハ和漢ノ才馬令ハ下り ●豹ハ狀虎小ハ細  
 有るつとハ之ハ教授あり皆自毛采と稱む ●鞅覆  
 ハ鞅覆ハ障泥ハ之ハ服裾小下げハ障の垂小蒙るハ之  
 の之多ク毛背皮也他ハ板小麻子熊毛也用也 ●押懸  
 ハ之ハ胸と曰ハハ之ハ鞅の動ハ乃ハ小 ●三驢ハ鞅の上  
 小考りハ之 ●鞅ハ之の意ハ考見  
 ●三條ハ蒙の地ハ小掩ハ之ハ考見  
 或ハ龍吐水  
 爲口階子大團水籠  
 敵擾等諸色の  
 職人

言身行不才之金

三十五

詩歌身代不事に金

詩歌俳諧之示  
近芝居傾城之  
衣類蒲團蚊帳

質屋掛取賣賣  
筆墨蠟燭甚將  
基双六盤之目盛



前裁乾物牛房  
昆布薯蕷山葵

のりの鈴之敵葉必造るの之望  
詩歌俳諧

之京近芝居傾城之衣類蒲團

蚊帳質屋掛取賣賣

筆墨蠟燭甚將

基双六盤之目盛

十代天武天皇  
後水尾院宇元承元年

●傾城の女いづたのさあはれのひさめりい寛文のひよりとり●蒲團  
いりし蒲の穂かをたへりさりの名久●笑わらひ其燈とう籠かごの品と傾城の合あ合あ合あ  
●信のり史しをのり●筆すぢ書かき推す百も天あま皇みかど十八年春二月うすふら元もと正ただより  
信のり墨すぢ燭もくを首くびをいんしき筆すぢ紙かみを紙かみにはめを始はじめと  
まへーむ香かう神かみ天皇てんわうの時始はじめ文字ありとこのひさめりいこころ  
より返かへりるさへー●燭もく燭もく傘かさと国くに時ときふ返かへりるあとの條じょう下したとすさへー  
●基もとをもと竟つひのつひ能よるよ所ところには我われ乾かわひか備ひ大おほ片かたより始はじめ●將まさ  
是こゝ周しゅうのしゅう衣い布ふのふ能よるよ所ところには天あま正ただのただ以もち字じ柱はしらとのひの始はじめの  
は一あり●双ふた六ろく梁りやうのりやう衣い布ふ天あま皇みかど元もと正ただ年中我乾ひりて二十六代  
我われ初はつ天あま皇みかどのあま衣い布ふ小こあむりといいとおろよりありてあむりとい

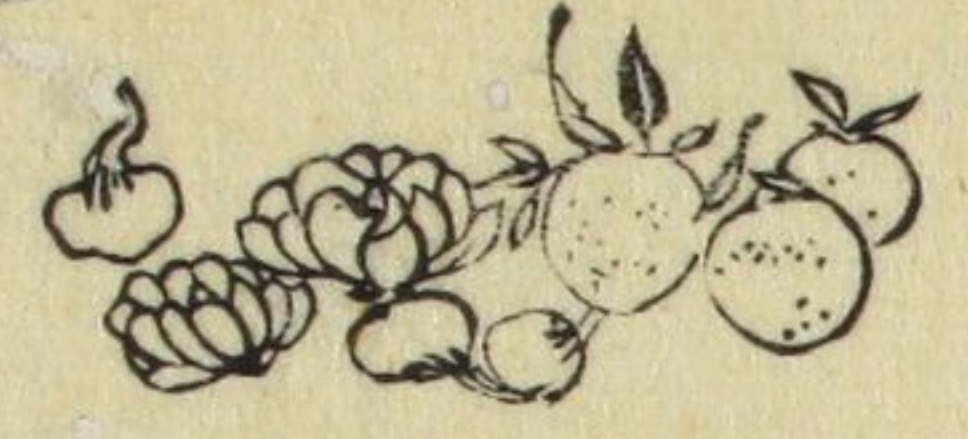
前裁乾物牛房昆布薯蕷山葵

萱身生天書土抄

三十一



獨活 若和布荒  
 布落 蕪生 姜茹  
 子若菜 葵药 弱  
 晒豆 腐苣 芹生  
 海苔 青海苔 熨  
 斗 鰯 捣栗干 瓢  
 百合 推茸 葦冬  
 葱 蒜 菱 烏芋 林  
 檜 蒲 菊 利 子 金  
 柑 花 抽 山 椒 温  
 飢 素 麩 蒸 物 茹  
 物之見世賣



葵獨活 若和布荒 蕪生 姜茹  
 子若菜 葵药 弱 晒豆 腐苣 芹生  
 海苔 青海苔 熨 斗 鰯 捣栗干 瓢  
 百合 推茸 葦冬 葱 蒜 菱 烏芋 林  
 檜 蒲 菊 利 子 金 柑 花 抽 山 椒 温  
 飢 素 麩 蒸 物 茹 物之見世賣

● 蕪生 晒豆 腐苣 芹生  
 ● 海苔 青海苔 熨  
 ● 斗 鰯 捣栗干 瓢  
 ● 百合 推茸 葦冬  
 ● 葱 蒜 菱 烏芋 林  
 ● 檜 蒲 菊 利 子 金  
 ● 柑 花 抽 山 椒 温  
 ● 飢 素 麩 蒸 物 茹  
 ● 物之見世賣

堂身主天音主少

三十一

早稲さきく之の類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま



扱又菓子者あつかい西さい  
 條柿密柑じょうし柑かん柑かん柑かん柑かん柑かん  
 肥い餡餅あんぱん羊羹ようきやう饅頭まんじう  
 頭砂糖かぶら糖とう櫃び霰せん煎せん  
 餅外良もち餅もち暑あつ餅もち  
 興米索きやうまい餅もち小輪せうりん  
 糖等とうとう也



早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

早稲さきく類るい晚稲わんくわく  
 之の糯米のち琉球りゅうきゅう球子きうし  
 蕎麥そば大豆だいず苡子いし  
 胡麻ごま大角だいかく豆まめ蜀しやく  
 黍ち粟ぼ稗はい麥ま小豆こまめ  
 之間屋のま

萱身生衣青主抄

三十九



呉服所者金襴  
綾織蜀紅綿純  
子綸子縹子天

鷲絨紗綾縮緬  
羅紗猩々緋羅  
脊板毛纏兜羅  
錦麻苧摘綿端  
物一色並小



此の物に製を以て戸の定永の民中清浄を始めて造る  
●羊羹を以ての色の小を多の如く敷る●慢頭浴の速  
仁才身二世銘正禪降宋より林洋園といふものにて連席  
小比の注進を以てく慢頭を始めて製を●極敷を  
りのみを以て製を●黄條ハ米或ハ小麦粉を以て製  
●外丹ハ大元の降字敷といふもの我初より始めて製  
を●黄條ハその色を以て名づくもの●真米を以て  
極敷といふ●索條も索類のもの●小梅ハ未考●  
糲ハ米と  
以て製を

**呉服所者金襴**

綿純子綸子縹子天  
綾織蜀紅綿純

**羅紗猩々緋羅**  
**脊板毛纏兜羅**  
**錦麻苧摘綿端**  
**物一色並小**

十六代鷹神天皇十四年其の玉より具羽を織羽を  
以て二人の女を以て織を始めて織りぬるハ故小具服とい  
ふ●令糲ハ糲を以て織をトむる而も之を糲の糲ハ氏と  
糲といふ●綾織ハ再陳の依成織物也●蜀紅綿ハ唐土の  
蜀の玉より織ぬる●純子ハ唐土より出るといふ大純子  
小純子ホあり●綸子ハ紗綾小比より比文稲つまのホホ比紋  
あるといふ又ホありホホより出るといふ●縹子ハ唐  
土より出るといふ●天鵝絨ハ正保慶安の以京師より織

莖身生衣青土山



直垂狩衣大紋  
布衣素袍之装  
束類水干葛袴  
素結直綴袷袋  
地之仕入時々節々  
之品々者凡混乱  
せ令了間亦女細

●紗綾ハ綾不似て地又い糸のまの如く儼不さまとい  
●縞細ハ和名ともいひ●羅紗ハ雲帯ハ阿蘭陀とい  
●狩ノ細ハその糸不そろて名づく●羅袴扱ハら紗  
のころひろきとじ布大不劣れり●先種もわらんごとい  
●地羅縞ハ南系とい  
●縞物も本字反扱

布衣素袍之装  
束類水干葛袴

素結直綴袷袋

地之仕入時々節々  
之品々者凡混乱

紙面小頭ト難  
織殿漆紋誂

注文



四季牡丹之撰  
様竹薮  
菊杖萩

紙面小頭ト難  
織殿漆紋誂

その形長結不似て葉とまろく一縞衣を以て他ヲ縞細ハ  
扱之●袴衣も紋も不定める一形布衣不似たり云  
ハ袴扱るゝふ差用ハ●大紋も布縞意のゝと大らう  
級ある扱不名とい●布衣ハ袴衣不似て紋ハ●世々の傳

髪と若毛●素袍も布と似て以て漆を級定める一●水  
干ハ袴扱といふ結と用ひる色も定る一●素結ハ縞意

小似く葉ともさぬいもあり●縞縞も儼不いふところも  
●裳沙帯ハ袴扱ともいふ●大紋ハ五條・七條ホありて縞

こも成衣といふ●  
縞及ハ扱ともいふ

四季牡丹之撰

薄杜花菖蒲

鍊線河骨藻塩

草女郎花躑躅

芭蕉篠笹木賊

董薊桃櫻



桐蔦葵澤泻芙

蓉酢漿草桔梗

一ツ巴ニツ瓶子ニツ

鱗藤輪違鐘蝶

膝九曜椿茗荷

鷹の羽抱拍洲

濱類也



雞之菊杜若為杜若為蒲

漆線河骨深竹葉為躑躅

濁芭蕉篠笹木賊董薊桃櫻

秋をとり入●牡丹の年終  
時代は深とも小同トと△  
とい入●櫻の……

風草とい入●女舞花  
とい入●櫻の……

根小瓶草とい入●

根考葵澤泻芙蓉芍薬桔梗

梗一ツ巴ニツ瓶子ニツ

九曜椿茗荷鷹の羽抱拍洲

也●根小瓶草……

小條時及江の……

但亦旅行之賤  
別所々の土産  
唐物和物之製  
藥者



龍骨虎肉鮫膽  
浮龜蜂密麒麟  
血雷丸の油當歸  
川芎麥門冬黃  
著白朮茯苓地  
黃山梔子蓮翹  
白芍藥肉桂伽  
羅明礬烏頭白  
檀車前子紅陳  
皮煇硝犀角一  
角獸東京藥種  
人參之本座

言身名及辨之錄

● 獲捕の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり  
● 九疋の甲を合せと。● 櫛を密柑のふくみ櫛といふのち  
包櫛のふくみ合せと。● 櫛の天のふくみ合せと。● 抱拍の櫛のふくみ  
合せと。● 櫛のふくみ合せと。● 櫛のふくみ合せと。● 櫛のふくみ合せと。

但亦旅行の獲別所々の土産者

物和物と製藥者 ● 獲の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり

● 獲の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり  
● 獲の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり  
● 獲の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり  
● 獲の形のつり手ふよつて名を以て。獲の農具あり

龍骨虎肉鮫膽  
浮龜蜂密麒麟  
血雷丸の油當歸  
川芎麥門冬黃  
著白朮茯苓地  
黃山梔子蓮翹  
白芍藥肉桂伽  
羅明礬烏頭白  
檀車前子紅陳  
皮煇硝犀角一  
角獸東京藥種  
人參之本座

言身名及辨之錄

四十三



稱宜神主陰陽  
師法華經般若  
轉讀修行之行  
者勤行回向施  
餓鬼之陀鉢頭  
陀之僧尼

**本座** ● 治骨の熱と毒の肉腫と治す ● 結毒の胃の弱  
取けえん去一切を治す ● 浮腫の未考成もの小赤赤眼  
あつはもろ死のあり是と合すれば命を絶す ● 是の良薬 ● 結  
寒いんとあつけ二便の通利をよくし ● 麒麟血のちともの  
妙薬 ● 膏丸の膏薬とす ● 毒とす ● 毒師の血を  
補ふのあり ● 川芎の熱血を消散し ● 麦門冬の心と  
あつらふ ● 芙蓉を水に煮てあつらふ ● 白朮の心とあつら  
れあつらふ ● 茯苓の心と補ひあつらふ ● 龍骨 ● 龍骨  
えんを治めを補ふ ● 山梔子の眼の熱とす ● 蓮翹の  
心とあつらふ ● 白芍薬の熱を治めいんとあつらふ ● 肉  
桂の心と補ひいんとあつらふ ● 伽藍の心とあつらふ ● 蓮とあつら

● 明礬の毒の熱とあつらふ ● 烏路のせんきす白と治す  
● 白檀の邪をとり濕をとり ● 車前子の小便を利し  
● 紅珠の心と毒を治す ● 煇硝の熱とあつら  
● 血を清くし ● 犀角の心と熱を治す ● 一角獣と小同ド  
● 人參の血を  
**稱宜神主陰陽師法**

**般若經** ● 般若經の修持の功  
**回向施** ● 餓鬼の陀鉢頭  
**陀之僧尼** ● 稱宜神主陰陽師法

**陀之僧尼** ● 稱宜神主陰陽師法  
● 陰陽師の天文  
● 天文の精注

謹將性來精注妙

二四十四



稽古所者 鈿鏡  
 柔術 諸禮學  
 医道 乱舞 樂音  
 曲 謡 鼓 笛 太鼓  
 横笛 羯鼓 笙 篳  
 篥 琵琶 琴 三弦



尺八 鼓弓 小唄  
 浄瑠璃 踊藝  
 子指南

言身代り米シシ金

倍氏曆の收まらぬ氏不傳人・法華の二部八巻廿八品  
 あり・寂若の六百巻あり・佛續の有り・すみあり・修  
 験の収のり者祖と云ふ山の一派あり・施儀鬼の  
 目連考者の母儀鬼乃人海よりとすまんて格めを  
 より格る・呪符も辨をもとと・頭陀の辨をも格の  
 あり・佛のてあふふより・尼ハ佛不同く日る重なる女  
 十葉のてあふふと

勢下者鈿鏡  
 勢下者鈿鏡  
 勢下者鈿鏡

諸禮學 医道 乱舞 樂音 曲

横笛 羯鼓 笙 篳 篥 琵琶 琴 三弦

尺八 鼓弓 小唄

浄瑠璃 踊藝

子指南

珍の補正 汲古の傳り

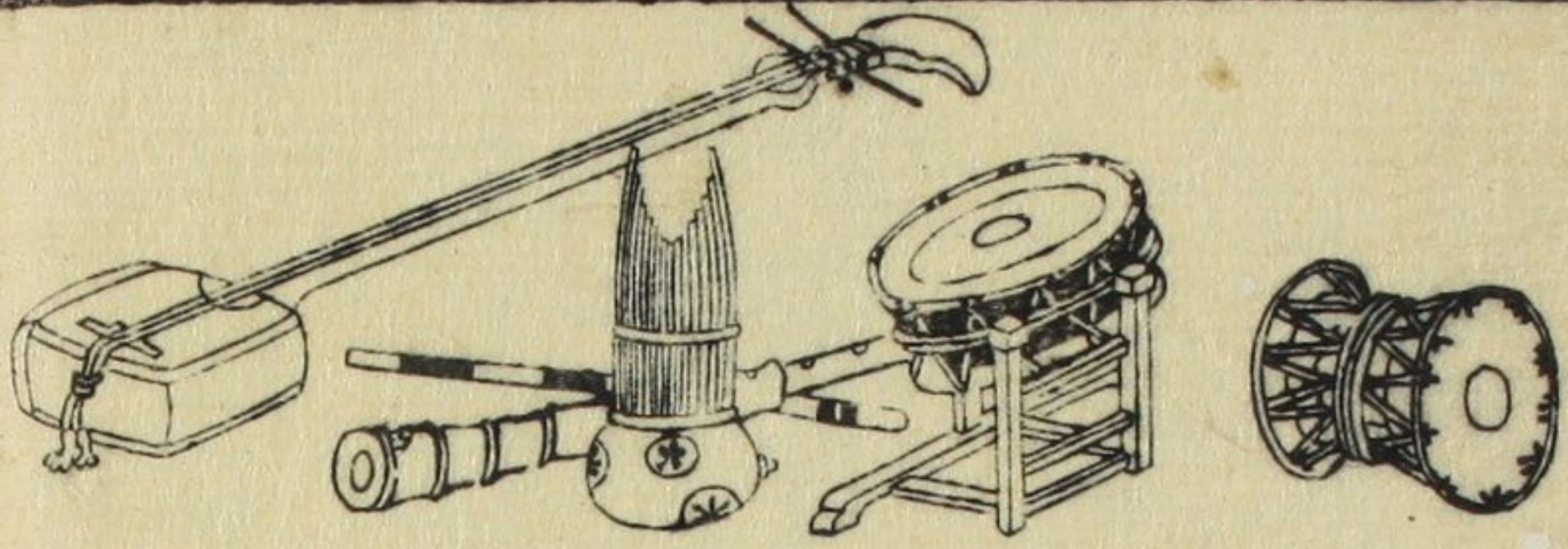
大徳の海元 賢来 和して 海生 後 七 弁 ちの 破 目 なる ちの 上

浦子 たる 人 傳り 法 持 の 願 の あり 経 經 の 孔 孟 の 学

言身代り米シシ金

二四一





誦より始る●古歌ハ樂器之△鏡文小見と古歌といふ長さ八尺  
 圓經に尺とある是之●横笛ハ七尺一尺半孔九ツあり●羯鼓  
 ハ一尺五寸のホ器少く抱てりく見とつ今作徳之腰鼓也  
 羯鼓ハ尺と進之●笙ハ唐去女楊氏より始る大成ハ十九  
 簧ハ多クハ十と簧といひ●篳篥ハ大ハ一尺三寸ハ孔九ツあり  
 七尺といひ簧といひ●琵琶ハ一尺八寸ハ一尺二寸ハあり●琴ハ伏見  
 始る傳る手形丸くは法州にて願ふにのちあり●琴ハ伏見  
 氏の世小始り傳る琵琶面山まハ天正法り底の平なる地小  
 なる跡池ハ八寸ハ八風不通ハ風池ハ十寸ハ通ふなる●又法  
 ハ尺ハ小なるといひ今ハ琴といひ之●三弦ハ尺ハ八代後陽  
 成院文禄年中琉球より始り傳る●尺ハ八寸大中小  
 ありハ尺ハ一尺八寸と定といハ故小存といハ唐の玄奘小帝

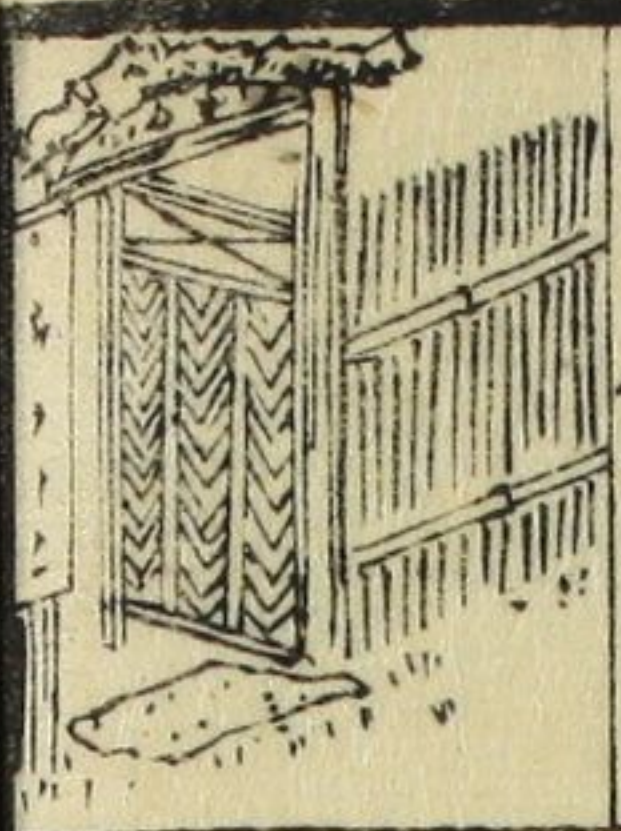


諸家の浪人門  
 々小者銘々の  
 表札と掛右膳  
 左近環衛守音  
 門頼母主計帯  
 刀主水采女甚

より始る●鼓弓ハ戦終の制也●小唄ハ薩摩を指とせ●  
 浮瑠瑠ハ百七代正徳院天正年中伝長公の侍女小野お  
 通といひの浮瑠瑠船の抱てり十二段を傳る成下  
 ぬといひ●踊ハ古舞妓の余風なり●藝子ハ園楽といハ  
 考といハ●掛南ハ一●後法皇ハ一●者銘と

掛表札右膳左近環衛守音類  
 母の汁第の力る水采女勤解物  
 集女座初縫殿身入藏人送満合

解由物集女監  
物發殿集人藏  
人造酒舍人兵  
庫外記圖書靴  
負男依典膳藏  
主齊免毛男吏  
且族梅干内匠  
轉雅樂要人等  
之姓名と題



家作之風流思  
々々々々々々々々  
者格子椀子玄  
関沓脱之物好  
柱長押鴨居敷  
居障子折戸高  
欄天井縁梁棟  
木桁冠木扉窗  
者鎖鍵仕付板  
敷密木破風木  
舞部厨瓦屋根  
板葺茅葺板庇

金屏外記圖書靴負男依典

人造酒舍人兵

庫外記圖書靴

負男依典膳藏

主齊免毛男吏

且族梅干内匠

轉雅樂要人等

之姓名と題

家作之風流思

々々々々々々々々

者格子椀子玄

関沓脱之物好

柱長押鴨居敷

居障子折戸高

欄天井縁梁棟

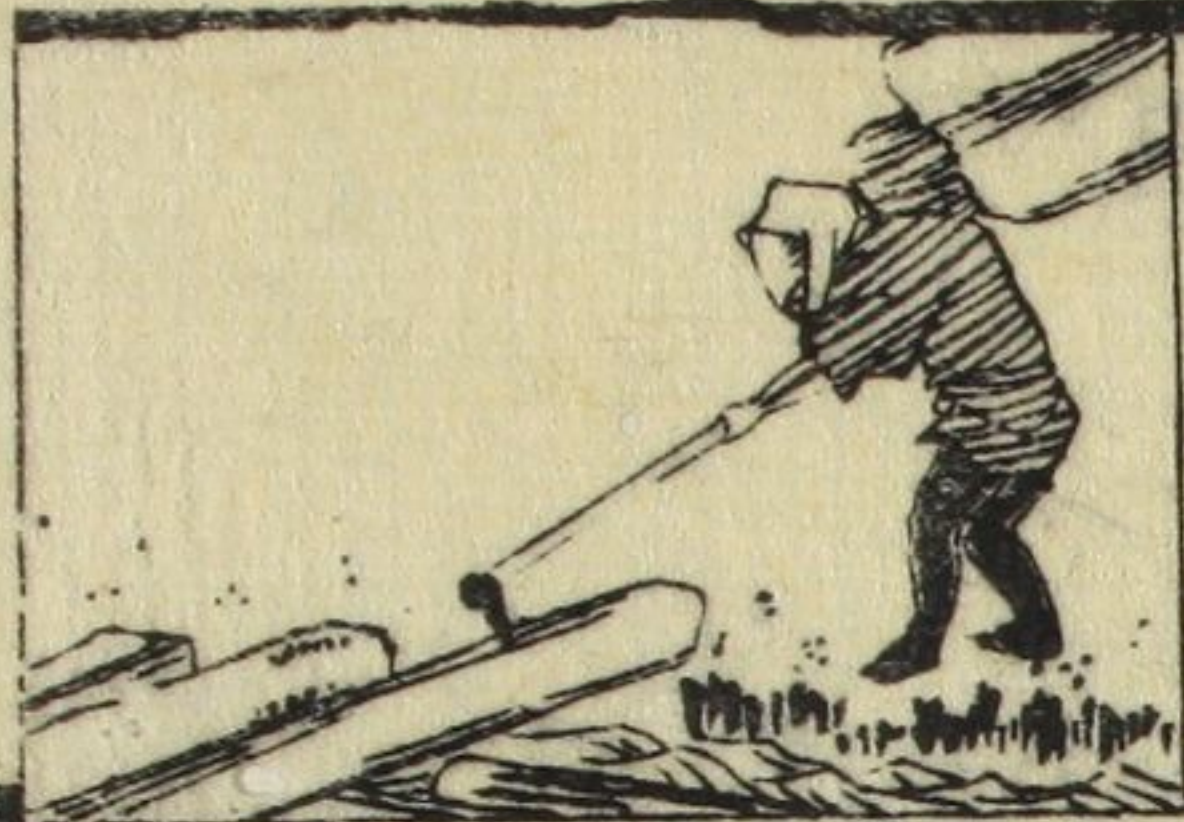
世身生尺書主抄

四十七



太縁織屏高麗  
細端床疊屏風  
襖衝立簾暖簾  
取置火燧圍爐  
裏之間材木者

濱湊運送之便  
利を設け檣樁  
枚枿樁樁枝保  
持掛等運賃  
駄賃之失墜を  
量り



●普賢舟のあまふくくふふく人の子たりていふはなれ  
●他のふれふれぬれり ●櫓子の窓の格まといふ ●長押ハ鴨居  
の上ふむる樗木多り ●おちハ棟接をいつくおちるるとあり  
●き橋ハ樗樫多り ●天井縁ハ榑縁といひ縁あり ●梁  
樗を敷ふりといふ ●棟木ハ左格の柱 ●冠木ハ門の柱の上ふ  
樗といふ ●意木ハ棟木のむかひさへ木 ●取風ハ棟の柱  
親木といふ所 ●本柱ハ榑の柱のあはれ格木  
連る木 ●柱のいそぶ目おとといふ ●刷の宋雨のこと

**太縁**

織成る羅縵細端床疊屏風簾  
衝立簾暖簾取置火燧圍爐

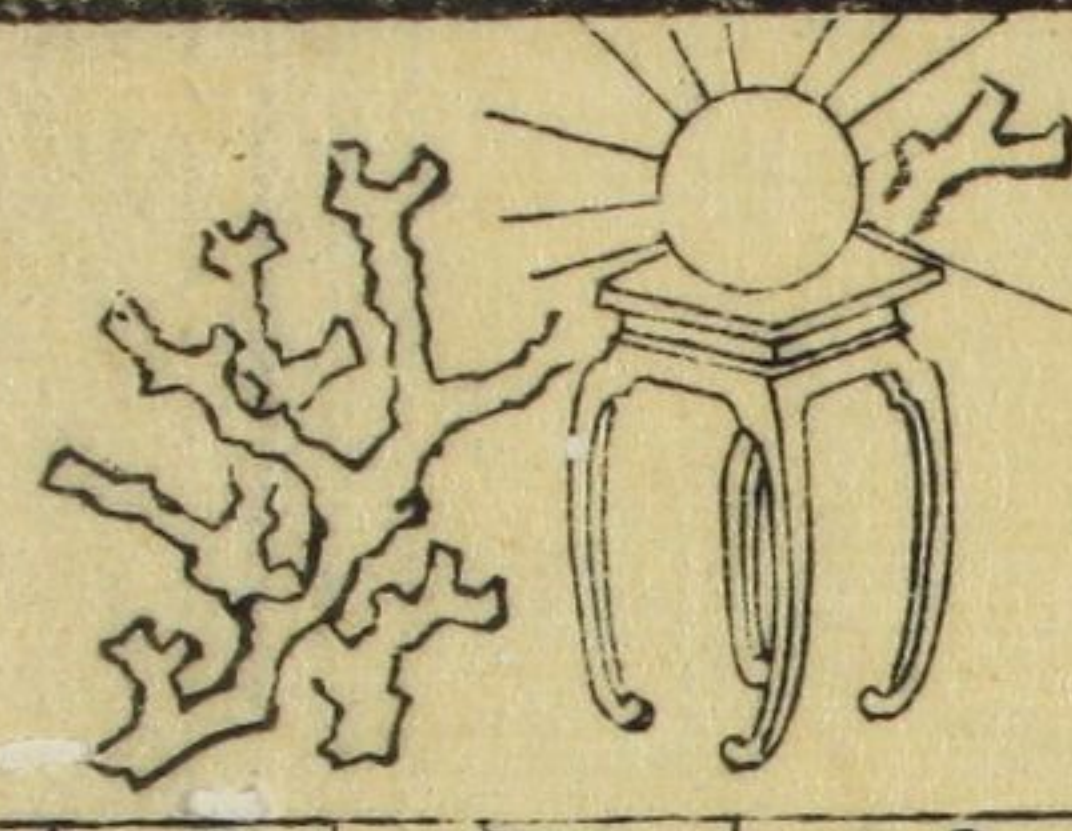
裏の間材木者濱湊運送之便  
利を設け檣樁枚枿樁樁枝保  
持掛等運賃  
**樗木量運賃失墜**

ハ織成の細少く端より二枚重ねのきこ倍小一を羅縵といふ  
●屏風の風をさし通すのまあるり ●襖の倍小唐串といふ  
●衝立ハ屏風と同じく申せへたるもの具也 ●暖簾ハのれいか  
ろすたれりしを今ハ布を用ひて敷居と名づる目やといふ ●困  
樗裏を焼のりする ●材木もふり切かしむる倍の木を材と  
いふ ●運送をせむびおらるるり ●柱は欠ハ長木小柱といふ

木挽番匠沙翫  
棟梁之工夫を  
探り斧推斧鑄  
据鉞矩錐鉋鑿  
釘鋸鑪之鍛を  
以て之を造作



將又讓之家財  
床饒者珊瑚瑠  
璃玻瓈琥珀瑪  
瑙水晶青貝之  
卓南臺南京之  
香爐



言身名及米之金

ありけり大角小こ入ありん鞆の正に若を履まると小ま便利あり  
よて若洗るを強るといふ事やとハ靴之●先師の目より足  
ぬきの探木後番匠沙翫棟梁之工夫を

探り斧推斧鑄据鉞矩錐鉋鑿釘鋸鑪之鍛を以て之を造作

釘鋸鑪以銀運他之

今俗小大の改つてと據梁といふ●斧ハ俗小のいふたえ●  
據斧ハ據梁の用也●銀名といふ●鐵ハ和名と云れたといふ  
ハ五つあり●沙翫ハたてたてぬりあり●據梁ハむし  
のうづりあり●家名といふ●小中改するのてさうといふ  
今俗小大の改つてと據梁といふ●斧ハ俗小のいふたえ●  
據斧ハ據梁の用也●銀名といふ●鐵ハ和名と云れたといふ

將又讓之家財  
床饒者珊瑚瑠璃玻瓈琥珀瑪瑙水晶青貝之卓南臺南京之香爐

家材床饒者珊瑚瑠璃玻瓈

琥珀瑪瑙水晶青貝之卓南

臺南京之香爐

香爐

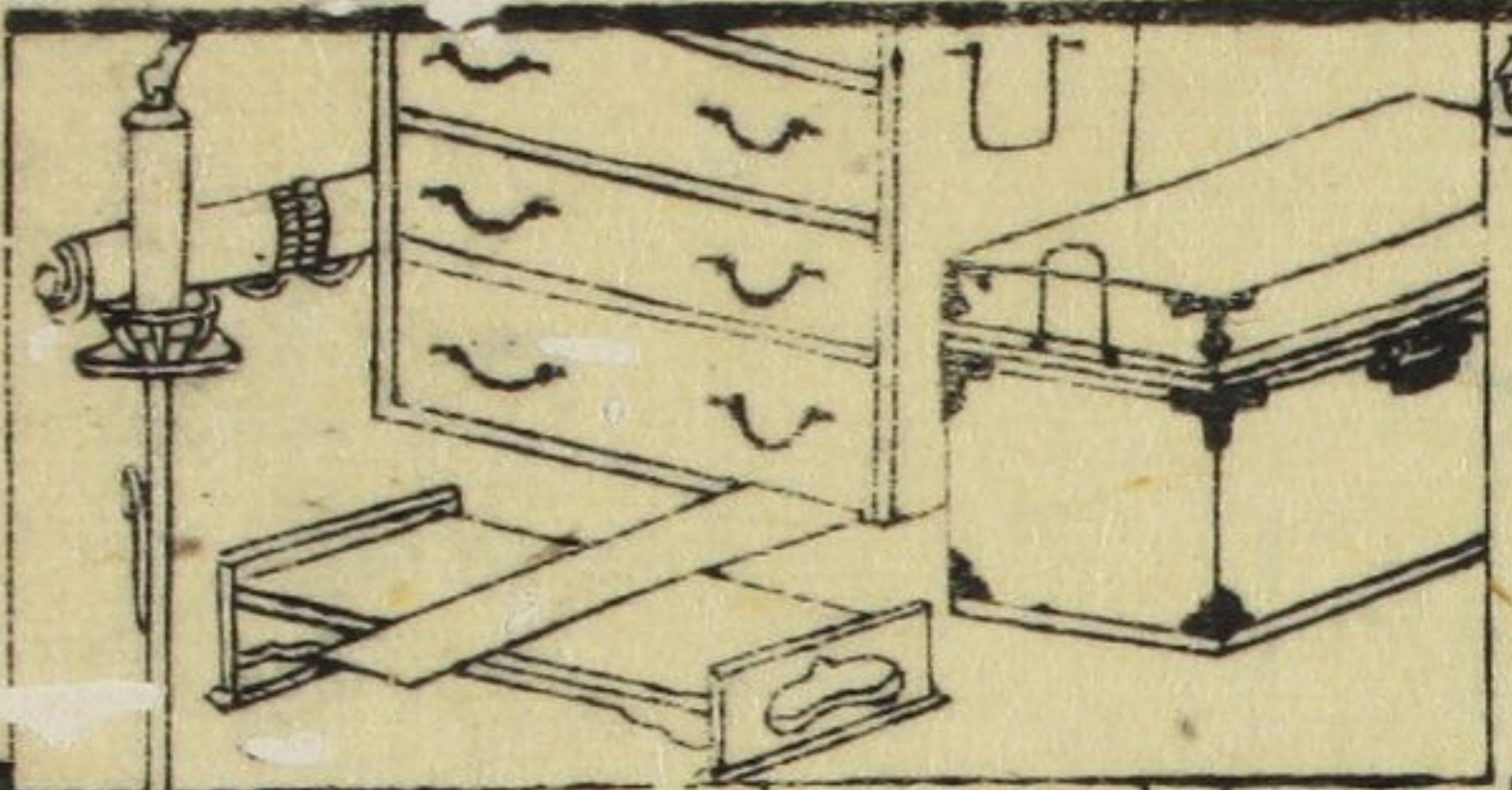
臺南正天香爐

二四一



玉細工

梨子地の硯箱  
錯竹獅子口の  
花活書画之掛  
物文庫文臺棚  
机簞笥行李狹



箱櫃長持脊負  
の葛籠燈臺燭  
臺行燈挑灯桶

△和漢字圖會不云破御下等と云く是と云んは熟する南蠻此  
獅子乎とあり●琥珀の虎をその形を精確に今今化して  
石とる不形に作りぬ虎魄といふと其の實の松脂の地小入り  
歳少くは夏とて琥珀といふるとより●琥珀は石にあらず玉小  
は是一種より紅白黒の三種あり●水晶の隨物あり形入之面白  
の二種あり之倭玉小多し●青貝の  
光り小よるる名く●香煙の香とく趣

梨子地の硯箱  
錯竹獅子口の  
花活書画之掛  
物文庫文臺棚  
机簞笥行李狹

箱櫃長持脊負  
の葛籠燈臺燭  
臺行燈挑灯桶

●獅子只獅子のほほゆる敷名く●文庫のふみとをきりしりの  
と名く●文庫も同く文庫のふみとをきりしりの  
の年より合格のぬい小物よりとあり●茶室の中より厨子あり  
衣服に入る身之●骨掛の本字は骨をてし髪髪髪髪とて作  
小掛の骨より●杖の代の新中慶長年中より茶室と  
より●櫃も本字匣之類を匣の類名く●長持も小同く●葛籠  
の履を織て履る履及び履のふり多く出た●燈臺●燭臺●  
の燈ハその指す面を知れば今作すは元は燈とて提をたは度



電之器物者眞  
 鍮鍋唐銅金料  
 理俎板數寄屋  
 之庖丁家具盃  
 盃銚子間鍋藥  
 罐銅壺柄抄水  
 瓶皿茶碗茶壺  
 白杵笈徒亦餘  
 者悉く省略令  
 豫トゆ肉毫小

不及び罕ぬ



凡三四之寶器  
 書籍遍傳  
 文道既成就

詩身作牙米之金  
 今の可引流は流の流人者らに多し  
 電

之寶物者眞  
 俎板數寄屋  
 庖丁家具盃  
 盃銚子間鍋藥  
 罐銅壺柄抄水  
 瓶皿茶碗茶壺  
 白杵笈徒亦餘  
 者悉く省略令  
 豫トゆ肉毫小

●料理の器  
 ●庖丁の器  
 ●茶碗の器  
 ●茶壺の器  
 ●銅壺の器  
 ●柄抄の器  
 ●瓶皿の器  
 ●白杵の器  
 ●笈徒の器  
 ●盃の器  
 ●盃銚子の器  
 ●間鍋の器  
 ●藥の器  
 ●罐の器  
 ●銅壺の器  
 ●柄抄の器  
 ●抄水の器  
 ●瓶の器  
 ●皿の器  
 ●茶碗の器  
 ●茶壺の器  
 ●白杵の器  
 ●笈徒の器  
 ●餘の器  
 ●者悉く省略令  
 ●豫トゆ肉毫小

堂身作牙米之金

五十一

世令世不博學  
大儒と呼び共  
身の行ひを得  
不不於て者八  
歳之童子小加  
不多く良きと  
集て其功能と不  
知多く金錢を  
貯て辨用せ不  
か如し  
日輪者一跡あり

而無量の世界と  
照し藝俗之我々  
玉珠不者光無  
法性正に備  
了則者一天之雲  
暗て暗夜小月  
の出るが如く忽  
然として心體則  
明也深淵小入  
て玉を求る良  
工之礎を同  
く者照水不夜

世の博學大儒若し海は  
不火蔵の童子如く集る  
不知の切能多行金後不辨用

●一玉の六・震且・天竺・日本とていふ  
●宝器をたうとては  
うらめしめと  
●書籍とていふ  
●一帙をくして中身を  
用ひて  
●小書の名も  
●大儒とていふ  
●孔子の及て  
●一良  
●其の  
●切能  
●辨用  
日輪者一跡あり

照し藝俗之我々  
玉珠不者光無  
法性正に備  
了則者一天之雲  
暗て暗夜小月  
の出るが如く忽  
然として心體則  
明也深淵小入  
て玉を求る良  
工之礎を同  
く者照水不夜

言身後列卷三

五十二

と下七こ不似  
日々の行の専ら  
り見へ聞不れ  
も聞え言不  
も言

智勇丹田  
虎狼も爰不近  
づくも能不兵  
も刃と入るも能  
不是即ち運之

修行ふ一而徳  
難少不在不天  
之歡給人可き  
者反不も共に  
之を悦び天之  
愁然ふ可き者  
同く共ふ之哉  
愁自策らま己  
厭ハ下鉞磨  
瘠不屈行ふ

り不をまる倍人といふ事  
●法性ありてその如く倍ありて  
●忽然いともまるといふ事  
●心體ありてその如く  
●深淵  
●良子ありてその如く  
●水  
●流ありてその如く  
●智勇あり

丹田虎狼  
是即運  
不難  
悦天

修行ふ一而徳  
難少不在不天  
之歡給人可き  
者反不も共に  
之を悦び天之  
愁然ふ可き者  
同く共ふ之哉  
愁自策らま己  
厭ハ下鉞磨  
瘠不屈行ふ



行住坐卧造次  
顛沛之忘日月

得善由積不者  
名之成不至ら

不惡也積不者  
身之亡もに至

唯善惡表裏之  
二道障碍魔縁

小表屋之貸家  
守小狐狸之附

置者神と侮り  
菩薩と誦り善

事と妨げ悪趣  
と導き凶苦倍

漏が如し  
五體之主者吟

而爰者專途小  
覺慢心却つ而

臆病之尾と顯  
皆店借之

成業而頓者  
愛目と見とる

愛目と見とる

愛目と見とる

まののりれは... 唯善惡表裏之  
二道障碍魔縁  
小表屋之貸家  
守小狐狸之附

置者神と侮り  
菩薩と誦り善

事と妨げ悪趣  
と導き凶苦倍

漏が如し  
五體之主者吟

而爰者專途小  
覺慢心却つ而

臆病之尾と顯  
皆店借之

成業而頓者  
愛目と見とる

愛目と見とる

愛目と見とる

愛目と見とる

愛目と見とる



僕従小逆



禮過れば親み  
離れ和過れば  
乱れ哉西者筑

言才徳不才の金

二五十五

生 ●男の父と父の父 ●姑の夫と夫の父 ●継母の後の母少少 ●叔母  
と母と父 ●伯父は父の兄と父の父と叔父といふ ●叔母

は父の妹をいへば伯母といふ ●兄弟はわふわふしてあてはるの和  
俗といふ ●又いへばねといふ ●弟の和をいへばいとこ ●姉妹ハ  
若兄弟といふ

といふ ●姪は兄弟の女子といふ ●後身といふ兄弟の子におまは  
るといふ ●姪の妻といふ ●叔母の送迎の儀といふ ●夫婦ハ

人倫の大なりとてをいとを小天地といふといふとて夫婦といふとて夫婦  
夫婦といふとて ●弟の孫の孫といふ ●主孫ハ  
ひらひらとて ●妻といふといふ ●僕後といふといふ ●禮といふ

離れ和過れば親み  
乱れ哉西者筑

離れ和過れば親み  
乱れ哉西者筑

浦東津浦合浦之限  
津涇合浦之限

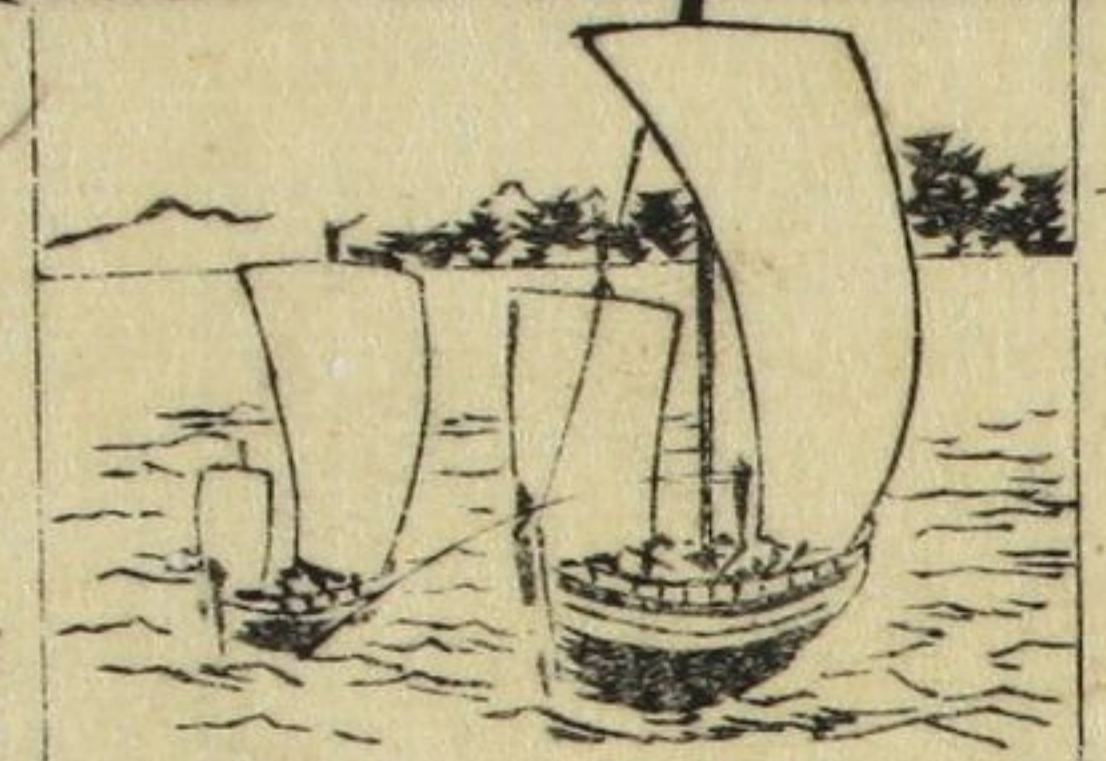
次押番散夫漢出之果逆

紫博多浦東者  
津涇合浦之限

り六十餘乃押  
普く蝦夷漢土

之果逆も

色と欲との煩



色と欲との煩

豈謝生來昔生妙

五十六

胎内小充  
満く憎間敷  
人々恨み愚癡  
嫉妬之瞋意と  
癸一外少粉黛  
瓔珞之粧ひ内  
小者蛇蝎之虚  
假心を含み愛  
河之淵小沈ま  
事薄き氷と履  
か如し其本乱れ  
て末治り無者

此惑也  
須く願ふ者静  
謐之思と起し  
老若男女不定  
之露命民の父  
母爲る天命を  
考へ或ハ早魁  
或ハ水損米穀  
拂底違作之年  
者粥食を可き  
の御觸と守る夏  
努々等閑小存

充後作内情も愛恨人獲老癡  
嫉妬瞋意外少粉黛瓔珞  
之粧ひ内小者蛇蝎之虚  
假心を含み愛河之淵小沈  
ま事薄き氷と履か如し其  
本乱れて末治り無者

須知生記静謐思老若男女  
不定露命民父母考天命或  
早魁或水損米穀拂底違作  
之年者粥食を可き之御觸  
と守る夏努々等閑小存

可く不



無服無食と常  
と鳥一慢と慎  
劣ると侮ら不  
袖乞非人寒る  
者飢る者と我

師と鳥く足  
と知之を欺  
み自分之虚を  
攻怨を愧歎心  
と穿鑿一無益  
之殺生を好不



捉と重人ト美  
麗者之營と除

不可存は雨  
・静謐にありて人々を安んずる。命を人の命に安んずる。命を人の命に安んずる。

乃者無服無食  
・民乃父母といふ天子の命を  
・早冠の雨をくく地は  
・水抜の出水の乃小田地とて  
・拵底のさくひどとて物のすくくりしといふ。遠他と  
・必事の人米の出来ぬといふ  
・為保のあまきとていふ

情慢不悔劣初也非人寒者飢  
者乃我神智之惑之自分之攻

虚愧必穿鑿歎心不毎暮を

殺生  
・無服いあうく・  
・慢いあうく・  
・袖乞ハ乞合ふ・  
・合あふ・

・自分之虚を  
・攻怨を愧歎心  
・と穿鑿一無益  
・之殺生を好不  
・と知之を欺  
・み自分之虚を  
・と鳥一慢と慎  
・劣ると侮ら不  
・袖乞非人寒る  
・者飢る者と我

重捉除は麗者之營と除

儉約等基<sup>えんけつらうき</sup>之用<sup>のりよう</sup>  
ひ<sup>ひ</sup>牙<sup>や</sup>和<sup>わ</sup>忍<sup>にん</sup>辱<sup>じゆく</sup>小<sup>せう</sup>  
と謙<sup>けん</sup>り身<sup>み</sup>を  
碎<sup>さい</sup>き忠<sup>ちゆう</sup>義<sup>ぎ</sup>孝<sup>かう</sup>行<sup>かう</sup>  
悌<sup>てい</sup>信<sup>しん</sup>之<sup>の</sup>道<sup>だう</sup>益<sup>えき</sup>懈<sup>かい</sup>  
怠<sup>たい</sup>無<sup>む</sup>く農<sup>のう</sup>家<sup>か</sup>職<sup>しやく</sup>  
と励<sup>れい</sup>み辛<sup>しん</sup>抱<sup>ほう</sup>せ  
令<sup>しやう</sup>る則<sup>すなは</sup>ち親<sup>しん</sup>族<sup>ぞく</sup>  
安<sup>あん</sup>堵<sup>ど</sup>家<sup>か</sup>門<sup>もん</sup>堅<sup>けん</sup>  
固<sup>こ</sup>末<sup>まつ</sup>賑<sup>ねん</sup>小<sup>せう</sup>敏<sup>みん</sup>糸<sup>いと</sup>昌<sup>しょう</sup>  
之<sup>の</sup>礎<sup>いし</sup>何<sup>なに</sup>事<sup>こと</sup>之<sup>の</sup>  
小<sup>せう</sup>如<sup>に</sup>ん<sup>にん</sup>乎<sup>や</sup>



苟<sup>こ</sup>小<sup>せう</sup>善<sup>ぜん</sup>根<sup>こん</sup>是<sup>これ</sup>小<sup>せう</sup>  
極<sup>ごく</sup>り現<sup>げん</sup>在<sup>ざい</sup>之<sup>の</sup>鑑<sup>かん</sup>  
人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>奉<sup>ほう</sup>て賞<sup>しょう</sup>翫<sup>くわん</sup>  
を追<sup>お</sup>々<sup>々</sup>披<sup>ひ</sup>露<sup>ろ</sup>注<sup>ちゆう</sup>  
進<sup>しん</sup>小<sup>せう</sup>依<sup>い</sup>り流<sup>りゅう</sup>石<sup>せき</sup>  
御<sup>ご</sup>役<sup>やく</sup>所<sup>しよ</sup>者<sup>しや</sup>粗<sup>そ</sup>遙<sup>ぎやう</sup>  
不<sup>ふ</sup>聞<sup>もん</sup>一<sup>いつ</sup>召<sup>めい</sup>被<sup>ひ</sup>之<sup>の</sup>

義劫<sup>ぎけつ</sup>柔<sup>じゆう</sup>和<sup>わ</sup>忍辱<sup>にんじやく</sup>身<sup>み</sup>忠<sup>ちゆう</sup>義<sup>ぎ</sup>  
孝<sup>かう</sup>乃<sup>の</sup>情<sup>じやう</sup>信<sup>しん</sup>道<sup>だう</sup>益<sup>えき</sup>懈<sup>かい</sup>怠<sup>たい</sup>  
家<sup>か</sup>職<sup>しやく</sup>令<sup>しやう</sup>辛<sup>しん</sup>抱<sup>ほう</sup>則<sup>すなは</sup>ち親<sup>しん</sup>族<sup>ぞく</sup>安<sup>あん</sup>堵<sup>ど</sup>  
固<sup>こ</sup>末<sup>まつ</sup>賑<sup>ねん</sup>小<sup>せう</sup>敏<sup>みん</sup>糸<sup>いと</sup>昌<sup>しょう</sup>  
之<sup>の</sup>礎<sup>いし</sup>何<sup>なに</sup>事<sup>こと</sup>之<sup>の</sup>小<sup>せう</sup>如<sup>に</sup>ん<sup>にん</sup>乎<sup>や</sup>

●按<sup>あ</sup>の拙<sup>せつ</sup>のさ<sup>さ</sup>とめ<sup>め</sup>●及<sup>及</sup>藤<sup>とう</sup>のう<sup>う</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>のさ<sup>さ</sup>とめ<sup>め</sup>●緘<sup>けん</sup>狗<sup>こう</sup>のう<sup>う</sup>  
●小<sup>せう</sup>のま<sup>ま</sup>のう<sup>う</sup>のさ<sup>さ</sup>とめ<sup>め</sup>●弟<sup>てい</sup>和<sup>わ</sup>のう<sup>う</sup>のさ<sup>さ</sup>とめ<sup>め</sup>●忍<sup>にん</sup>辱<sup>じやく</sup>のう<sup>う</sup>  
●孝<sup>かう</sup>乃<sup>の</sup>情<sup>じやう</sup>信<sup>しん</sup>道<sup>だう</sup>益<sup>えき</sup>懈<sup>かい</sup>怠<sup>たい</sup>  
家<sup>か</sup>職<sup>しやく</sup>令<sup>しやう</sup>辛<sup>しん</sup>抱<sup>ほう</sup>則<sup>すなは</sup>ち親<sup>しん</sup>族<sup>ぞく</sup>安<sup>あん</sup>堵<sup>ど</sup>  
固<sup>こ</sup>末<sup>まつ</sup>賑<sup>ねん</sup>小<sup>せう</sup>敏<sup>みん</sup>糸<sup>いと</sup>昌<sup>しょう</sup>  
之<sup>の</sup>礎<sup>いし</sup>何<sup>なに</sup>事<sup>こと</sup>之<sup>の</sup>小<sup>せう</sup>如<sup>に</sup>ん<sup>にん</sup>乎<sup>や</sup>

苟<sup>こ</sup>小<sup>せう</sup>善<sup>ぜん</sup>根<sup>こん</sup>是<sup>これ</sup>小<sup>せう</sup>  
極<sup>ごく</sup>り現<sup>げん</sup>在<sup>ざい</sup>之<sup>の</sup>鑑<sup>かん</sup>  
人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>奉<sup>ほう</sup>て賞<sup>しょう</sup>翫<sup>くわん</sup>  
を追<sup>お</sup>々<sup>々</sup>披<sup>ひ</sup>露<sup>ろ</sup>注<sup>ちゆう</sup>  
進<sup>しん</sup>小<sup>せう</sup>依<sup>い</sup>り流<sup>りゅう</sup>石<sup>せき</sup>  
御<sup>ご</sup>役<sup>やく</sup>所<sup>しよ</sup>者<sup>しや</sup>粗<sup>そ</sup>遙<sup>ぎやう</sup>  
不<sup>ふ</sup>聞<sup>もん</sup>一<sup>いつ</sup>召<sup>めい</sup>被<sup>ひ</sup>之<sup>の</sup>

在<sup>ざい</sup>理<sup>り</sup>人<sup>にん</sup>奉<sup>ほう</sup>賞<sup>しょう</sup>就<sup>じゆう</sup>進<sup>しん</sup>終<sup>しゆう</sup>其<sup>き</sup>露<sup>ろ</sup>  
流<sup>りゅう</sup>石<sup>せき</sup>依<sup>い</sup>り流<sup>りゅう</sup>石<sup>せき</sup>粗<sup>そ</sup>遙<sup>ぎやう</sup>  
不<sup>ふ</sup>聞<sup>もん</sup>一<sup>いつ</sup>召<sup>めい</sup>被<sup>ひ</sup>之<sup>の</sup>

時遮れ容易  
ら不更せ与



拔群之御執成  
有尤御許容御  
賞美之上稀成  
御褒美結構小

預ら者積善之  
家必餘慶  
有与本望之小  
過不

天を仰ぎ地を  
伏く之を三拜  
を榮華心世  
衰り勞  
種と爲を生涯  
之規模末代  
面目譽を顯

そのねん●預る者のまへ●賞美ははめりくわとべとの賞  
光他より終る賞おとのいふるふま我今なきく  
ふらのと小用の●抜かり主人のあめて取次ぐむせ中  
いふふあてひうまわうりたり●賞をいふもさるけに  
つげあふせまふひの●流石それわとありんとのさるまじ  
いふふふううが石と流まてふらたうたりのありまじ  
ともあひまうとと●粗いあうりめ●連六天晴ともま  
天のよまうとと人とあむる云々の●不審易いふらわらぬ

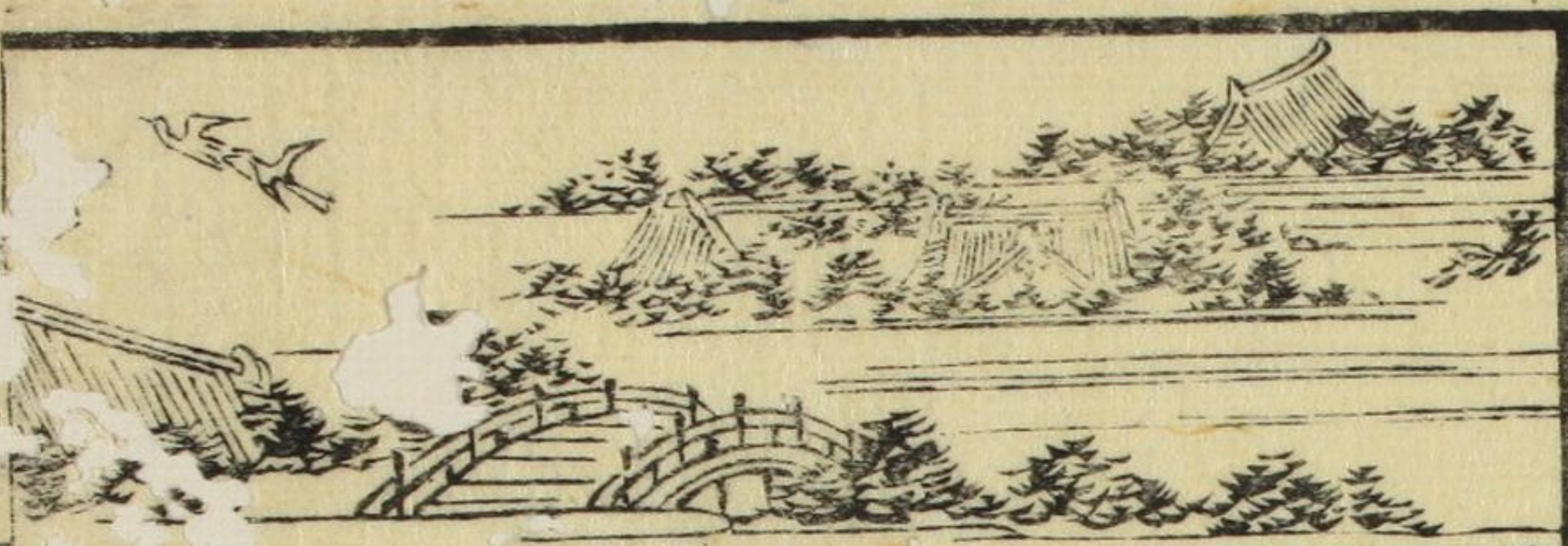
有拔群之御執成  
賞美之上稀成  
御褒美結構小

預ら者積善之  
家必餘慶  
有与本望之小  
過不

天を仰ぎ地を  
伏く之を三拜  
を榮華心世  
衰り勞  
種と爲を生涯  
之規模末代  
面目譽を顯

感涙膽小知も  
莫是偏小往  
代の行ハ賢  
之仁政上下風  
淳美るる  
徳の潤るる致  
所誠小拙言小  
能ハ不腐筆小  
及不所の者也

謹身往來終



言身往來終  
自於老感涙以流  
代の行ハ賢  
之仁政上下風  
淳美るる  
徳の潤るる致  
所誠小拙言小  
能ハ不腐筆小  
及不所の者也



ありて人下面とありてを  
柄とありてありて人  
感涙を  
ありて人下面とありてを  
柄とありてありて人  
感涙を

謹身往來終



維時 文久元龍辛酉臘月稿成  
同 二星 壬辰 發市

注釋 鶴亭藤村秀賀  

畫圖 一 梅齋芳春  

傭書 櫻亭小森金城  

書肆 江戸室町二丁目 大坂屋藤村發行

### 東都

日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 二丁目	山城屋佐兵衛
南傳馬町二丁目	山城屋政吉
芝神明前	和泉屋吉兵衛
横山町壹丁目	出雲寺文治郎
日本橋通二丁目	須原屋新兵衛
芝神明前	和泉屋市兵衛
馬喰町二丁目	森屋治兵衛
通 油町	藤岡屋慶治郎
本石町十軒店	梶屋伊三郎
馬喰町二丁目	山口屋藤兵衛

### 書物



### 問屋

